

第3回新城市地域産業総合振興条例審議委員会

平成27年1月27日（火）午後3時～午後5時
新城市消防防災センター2階 災害対策本部室

委員長あいさつ （略）

1 報告

前回の議事録の要旨について （略）

2 審議事項

委員長からの討議内容説明 （略）

グループ討議

Aグループ 1～

Bグループ 17～

グループ討議発表 29～

Aグループ 29～

Bグループ 31～

委員長 まとめ、今後の進め方 31～

3 その他

34～

録音機器不具合のため、グループ討議からの議事録となります。

グループ討議

【 Aグループ 】

○加藤直詳委員 たとえば、この、ヒアリングのまとめをご覧くださいと、聞き方もあるものですから、人口減少という一つ、キーワードが出てくるかと思えます。人口が、人が少ないという。であれば、そこから、自然に導き出されるのが、人口を増やすというような目標にもなってくると思えます。そんな課題を皆さんで、どうしましょう。上からさーっと読みながら、1個、1個、挙げていって。ポストイットした方がいいですかね。

○井上森林課係長 そうですね。何言ったかわかんなくはなっちゃいますよね。

○加藤直詳委員 ポストイットしましょうか。

○井上森林課係長 はい。挙げたものを記録していく感じですかね。

○加藤直詳委員 いく感じですね。じゃあ、そこ、何か、書記みたいに、井上さん、お願いしてよろしいですか。

○井上森林課係長 はい。わかりました。

○加藤直詳委員 よろしくお願いたします。1ページ目、上の方から、だーっと、皆さんで、ちょっと読み込んでいきますか。

○井上森林課係長 後のまとめの時に紙に貼った方がいいですか。

○事務局（谷川） じゃあ、いろいろと書いていければ。先に貼って。

○井上森林課係長 後で貼り直すのも大変ですよ。紙、ない。なければいいけど。どうぞ、皆さんの方は進めちゃってください。

○加藤直詳委員 はい。進めます。上の方から読んでいくと。女性の社会復帰というのが、一つの課題として出ています。女性の課題に。女性の社会復帰しやすいが目標になる

のかな。

○井上森林課係長 さっき、もう1個、何か言われてませんでしたっけ。これだけだったかな。最初に加藤さん、何か言われませんでしたか。

○加藤直詳委員 人口減少。

○鈴木延良委員 人口減少ですかね。

○加藤直詳委員 目標としては、人口が増えるということですかね。

○井上森林課係長 そうですね。

○加藤直詳委員 定住人口が増えるとか。

○山本勝利委員 市の課題だね。この人口問題は。

○井上森林課係長 ここから、今のこのA3の中から、5ページの中から、見て、一番、自分が多いと思うキーワードをぼんぼん、言っていっていただければいいのかなと思います。

○井上森林課係長 出たら、どっとメモっていきますけど。

○加藤直詳委員 あとは、空き家対策。住宅の問題ですよ。空き家対策。

○井上森林課係長 たとえば、全ページ見ると大変なので、一人1ページとかに集中してもいいかもしれないですね。

○加藤直詳委員 じゃあ、そうしましょうか。

○井上森林課係長 さっき、全貌をちょっと、わーっと見られたと言ったので、今更、限定しても申し訳ないかなとも思いますけど。やりやすい方で。

○加藤直詳委員 山本さん、全体に目は通されましたか。まだ。

○山本勝利委員 まあ、一応は。一応は。ほぼ。

○片桐商工・立地課長 何か、ピッと引っかかったものがあれば、それを挙げていけば。

○加藤直詳委員 何か。鈴木さんから、何か。その中であつた言葉で。課題、目標と言うか、課題。

○鈴木良延委員 大変かなと思うんだけど、たとえば、今、そこに出て来てるような、少し、ポイント絞って、さっき、今も、人口減少については、何か、こんな中から拾い上げてとか、それに何か、付け加えて、こんなのどうですかっていうような感じがいいのか。それで一つずつをちょっと、層別につちゅうのか。

○井上森林課係長 そうですね。

○鈴木延良委員 っ、やってないと、とにかく見て。そういうのが、ポイントだと、思うものを出していてもいいかなとも思うんですけど。

○加藤直詳委員 先に課題を全部、洗い出して、それから、その次のステップとして、どんな支援策が市としてできるのか、その課題に対して、市ができるようなことって何だろうなというところに、2ステップ、次のステップとして落とし込めればなと思っておりますので。まず課題で。

○鈴木延良委員 課題をね。

○加藤直詳委員 目標の洗い出しを。はい。空き家と同時に、空き店舗というのもちょこちょこ出て来てますね。

○井上森林課係長 そうですね。ありますね。

○片桐商工・立地課長 医療体制というのものもあるね。

○井上森林課係長 医療体制。

○加藤直詳委員 医療、福祉の充実という感じですかね。これでいくと。

○井上森林課係長 これは、もうちょっと何か、分解できそうですね。

○加藤直詳委員 分解してやってった方がいいのかな。

○井上森林課係長 いや、大丈夫。やりながら、分解したり、ひっつけたりしたらいいので。思いついたことをどんどん出していった方がやりやすい。

○山本勝利委員 若者を増やすと書いてお

いてください。

○加藤直詳委員 あと、労働力不足。

○山本勝利委員 労働力かな。労働力不足。

○井上森林課係長 若者を活かすというのもありますよね。

○鈴木延良委員 高齢者も、高齢者対策とか、高齢者の課題。

○井上森林課係長 高齢者のなに。課題。高齢者の何っていうのが、一番、目につかれましたかっていう。

○鈴木延良委員 高齢者の中で、あと、細かく。そういう、たとえば、働ける高齢者なのか、高齢者のそういう福祉をどうするのかとか。そういう買い物の問題だとか、一人暮らしの問題だとか、いっぱい出てくると思うんですよ。だから、高齢者からいろいろと問題を出していければ。

○井上森林課係長 福祉は通院とかでもいいですか。それとも、介護もですかね。

○鈴木延良委員 はい。介護もいっぱい、出てくると思うんですけどね。

○山本勝利委員 それから、私、これ、読んでいて、こんなこと言っただいかんのかもしらんけど。これ、見ていると、新城市の場合の、中小企業が多いですね。

○鈴木延良委員 そうですね。

○山本勝利委員 と言うことは、こういう中小企業の活性化って、これが、元気になることが新城市の全体が、元気につながってくるのかなというのは、漠然とした、そんな考えを持つんだけど。それじゃあ、元気にするにはどうしたらいいかって言ったら、後、考えられるのは、補助金しかないのかなって。我々、林業の補助金と一緒にのかなって。全般。

○鈴木延良委員 市内全部、個人も含めてヒアリング。

○井上森林課係長 事業所さんだけ。

○事務局（谷川主事） 事業所100のうち76です。

○井上森林課係長 500事業所でしたっけ。ヒアリング。

○事務局（谷川主事） 100のうち70幾つかですけどね。

回答が。はい。と言うか、いろいろ都合で、ヒアリングのできないところもありますので。

○山本勝利委員 変なことを言っちゃって申し訳ない。

○井上森林課係長 そんなことないですよ。

○鈴木延良委員 今。山本さん言われたのは、中小企業って言われたけど、対象は、全部、中小企業になっちゃっているんですよ。そうすると、ほかのところへは行ってないでしょ。大企業なんか行ってないでしょ。行ってんの。

○事務局（谷川主事） 1個だけ。OSG。

○鈴木延良委員 だから、そういう意味では、的が全部、中小企業とか個人に行っちゃってるから。もちろん、これは、そういうところが集中しますよね。だから、そこだけで、解決するかっていったら、なかなか難しい。こういう事業をやってる方と、個人のところと。あと、大企業さんと。大企業といっても、勤めている。

○片桐商工・立地課長 一応、地域産業総合振興条例なので、中小企業メインになってくるのかなという感じですね。新城の。

○加藤直詳委員 そうですね。浜ゴムさんや、オーエスジーさんは、我々のメンバーに皆さん、入っていただいていますし。そこで雇用とか、いろいろ含めて。

○山本利勝委員 人口問題とね、それから、その辺の対策で、一つ、ここで気にかかったのは、新城市が土地に対する固定資産税が高すぎるといようなことをどこかに書いてあったように。

○加藤直詳委員 小笠原さんが発言されている。小笠原さんの中にもあったね。高いって。

○井上森林課係長 前も固定資産税の計画

是正という。

○山本勝利委員 だから、そう、高い。そういうところなんて、高い。だから、結局、家をつくろうとか、そういう形にしても、新城市につくるよりも、外に出てってしまうというのが、現状にあるんじゃないかなという。

○鈴木延良委員 合併する前の鳳来町と新城のときでも、鳳来町でそういう話が出ました。新城に住んだ方がまだ少しはいい。いい意味と、悪い意味と、いろいろ比較すると。今は、もうそれが豊橋、豊川・・・話になってくると、桁違いですよ。住みよいという感じ。

○片桐商工・立地課長 住み場が、家を建てにくいというのが本来、ありますよね。

○加藤直詳委員 そうですよ。

○鈴木延良委員 その原因というのは、市街化区域。何が原因ですか。

○片桐商工・立地課長 そういうのもあるし、地価が高いですよ。何でか知らんけど。ここの中にもあるけども、豊川よりも高いとか書いてあるけど。不動産業界なのか、新城、高い、高いって言う。アパートも高いって言うしね。もうそれが基準になってるのかな。大体、この辺の。相場になっちゃってるのかな。

○井上森林課係長 そうですね。でも、なるべく、差異を少なくするには、軽減措置というか、係数とかで工夫して、計算されてるんですかね。税。

○鈴木延良委員 そういう部分が、こういうところから出て来たりとか、市は独自に調べてるんですよ。当然、情報は。やってないんですかね。よそと比べたら新城の水準がどうだとか、家賃だとか。たとえば、田んぼなんかでも、新城は、一次はすごく安かったんだけど、また結構、1反当たり100万ばかりしとるわけでしょう。

○井上森林課係長 あれも難しいと言うか、市が考えてしまうと、どうしても、収入の方

で考えてしまうので、たとえば、よそと比べて、うちは高いから、じゃあ、下げようっていうふうには、直接、進まないんですよ。だから、そのために調べてるっていうのは、多分あると思うんですけど。

○片桐商工・立地課長 土地を手放す人もいるのかもしれない。それだから、余計、下がらんというのか。

○井上森林課係長 なかなか、下げちゃったときに、財産の価値も下がってしまうというのがありますし、固定資産税とかだと。その辺もまた、下げればいいというばかりの方向でもないと思うんですね。市全体の収入を減らしちゃって振興なのか。それとも、みんなで、税金たくさん払えるようにどこかで稼いでおいて振興していくのかみたいなのところもあるのかなと思ったり。いろいろな方向。もちろん、税のことは挙げて考えていかなきゃいけないですけど、いろいろな方面でちょっと検討した方がいいのかもしれないですね。

○片桐商工・立地課長 やっぱり、何かで稼ぐ方向に持っていかなきゃいけないね。外からもらう。さっきも、観光で外から呼び込むことみたいなあったけど、外からとってくることも考えないかね。

○加藤直詳委員 実際、地代って高いんですか。土地の。僕もよくわかんない。

○片桐商工・立地課長 売買の実例というか、じゃないかなと思うんですけどね。

○井上森林課係長 家賃なんかは、豊川と新城と同じだったら、状況でいくと、新城の方が割高という。そういう意味の高いという方も結構いらっしゃるかなと思うんですけどね。

○片桐商工・立地課長 下げられないんじゃないかな。設定されてる。

○加藤直詳委員 土地代よりも、上物の部分で、かかったコストに対して、それはみんな同じというか。

○井上森林課係長 そうですね。そこをま

ず整理するのは、どこかってやっていただいとてという話で。

○鈴木延良委員 やっぱり、働くところがないというのが一番、大きいんじゃないですかね。高齢者は、家に残ってて、地元に残ってて、若い人たちが出て行く。高齢者が介護が必要であっても、その家族はあまり面倒を見れるのが非常に少ない。だから、民生委員とか、地域の人たちが、お医者さん、買い物に連れてったりとかね、そういう部分は物凄く地域の中ではたくさんあるんですよ。だけど、家族は、月に1辺か、年に数回、親のところへ来るぐらいの形になってくると、その親も、なかなか住んでるところの方がいいのか、息子さんのところへ行くとか、子どものところへ行くというのは、本当に動けなくなるまでは。動けなくなったときに、施設に入るか、自分たちでそこで頑張るか。子どものところに行くかってところですよ。やっぱり、高齢者家族というのが、一人暮らしとか増えていきますよね。

○井上森林課係長 そうですよ。

○片桐商工・立地課長 働き場が、近いところ。新城から通えるところだったら、新城に住んでくれると一番、いいですよ。税金が、市・県民税が入ってくるということで。外から稼いで来て。ただ、それで、住むところの問題と、あと、豊川、豊橋ぐらいなら通える。戻ってくれば一番、いいですよ。豊橋に住んで、向こうで税金が落ちれば、市に所得、収入、入って来ないですよ。大変、不便というか、やっぱり、そういう交通とか、いろんな面での不便で、向こうへ住んじゃうんですよ。住みやすければ。

○鈴木延良委員 ですよ。

○加藤直詳委員 あと、井上さん、市民が、市外で買い物するっていうことが多い。

○井上森林課係長 そうすると、何だろう。買い物する場所が少ないとか。

○片桐商工・立地課長 買えるものはでき

るだけ市内で買ってあげる方がいいんだけどね。

○鈴木延良委員 もうないですよ。旧鳳来の方なんかは、コンビニ以外は、ないですよ。ほとんど、もう。

○片桐商工・立地課長 スーパーなんかだったら、どこでも一緒なら市内で買って。そういうふうにして、できるだけ、外で買わないようにするしかないよね。

○井上森林課係長 ここの買い物って、あれば、高齢者の関係。

○熊谷観光課副課長 高齢者の買い物。

○井上森林課係長 悪い、課題みたいなのは、いっぱい、出たので、いいこと言ってる部分を探すというのは、もしかしたら抜け道かなと思いますけど。あまりないんですかね。

○加藤直詳委員 あまり、今回の、課題の洗い出しですもんね。

○鈴木延良委員 自然に関係するようなこといっぱいあるけれども。

○井上森林課係長 あまり、質問が課題を言ってくださいってなっちゃってるのかな。

○加藤直詳委員 どうなんでしょうね。今、鈴木さんが、大体、もうおっしゃっていただいたりした、高齢者の部分というのは、産業振興というよりも、福祉政策というくくりになるんでしょうかね。どうなんでしょうね。

○片桐商工・立地課長 福祉もあるけど、元気な人の活用は、産業政策だよ。

○加藤直詳委員 そこは産業ですよ。もちろん、そこは産業政策ですよ。健康の部分で。

○片桐商工・立地課長 元気でいけるなら。健康でいけるんだから、働いてもらった方が。農業やった方が元気で書いてあるってことは、動いてた方がいいんだよね。やっぱり。健康的に。

○鈴木延良委員 前のときも、一番、最初のときも、ちょっと言わせてもらったんですけどね、新城市の老人クラブ連合会が合併し

てから、僕、承知してる時は、4, 500人ぐらいいたんですよ。鳳来、作手も5, 000人近く。それが、もう、どんどん、どんどん減って、それで、今じゃ、もう、多分、2, 000人台じゃないですか。

○片桐商工・立地課長 何か、つき合いが少なくなったという。

○鈴木延良委員 鳳来では老人クラブは1カ所しかないです。老人クラブ連合会に加盟しているところは。

○片桐商工・立地課長 加盟する人が減ってるという。

○鈴木延良委員 減ってるんです。だから、老人はおるわけです。そういうのを見てると、何か、そういう、楽しみもないのか。

○山本勝利委員 そうじゃない。

○熊谷観光課副課長 楽しみがないじゃなくてね、反対にね。昔は老人クラブに入らないと何かできなかったものが、クラブに入らなくても、いろんな、地元であったり、そういうので、できる。いろいろなものが、スポーツでも何でも。

○鈴木延良委員 もうややこしいことをしなくても。

○熊谷観光課副課長 反対に、クラブ自体で役員になったり、その老人クラブだけの役員ならいいんだけど、それが市の役員だったり、県の役員などいろいろなものがついてきて、そちらの方が煩わしいってことで、皆さん、辞めていく人が多いみたい。

○山本勝利委員 そう。結局。

○熊谷観光課副課長 元気だけど。

○山本勝利委員 老人クラブあっても、市の入るの嫌だというのは、何か会合やると、市の中心部でしかやらない。まして、あんな、離れたところでやられたら。というのは、車に乗れる人しか行けない。だから、もうそれだったら、老人クラブ辞めて。

○鈴木延良委員 地元だけでやるわけで。クラブだけでやる。地域だけで。

○山本勝利委員 そういう理由が物凄く多かった。たとえば、その当時、老人クラブの会長をやっていた人がいて、老人クラブなんか引退もうだって。新城から引退だという理由は。

○鈴木延良委員 そう、それも大きい。

○山本勝利委員 何であなた。そこ行くには、車を運転できんに行けないし。乗り合わせて行かないと行けない。とてもじゃない。そんなところでやるんだったら、脱退します。

○鈴木延良委員 だから、地域ではそれなりにね、老人クラブという組織の中で、ボランティアだとか、いろんなことをやってるわけですね。そういうものができなくなってくるから。

○山本勝利委員 そういうのも。

○鈴木延良委員 やっぱりね、活性化にはなかなかないんだよね。そういうのが、組織がきちっとして、あれば、みんな、それにやりがいを持って入ってくると、活性化にもなって、いろんなことも手を広げて、地域に対して貢献もできるんだらうけどが。そういうところが、物凄く弱くなってるような感じもしますよね。どういうふうにしたらいいかわからんけど。

○井上森林課係長 いや、そうですよね。

○山本勝利委員 それは雑談。

○井上森林課係長 いやいや、そこはでも、一つ大きなポイントで、今までの形が、何か、成り立たなくなってきた、新しい形に変わってきてやり出している。それが意外と地域の人には合ってる。というのが、老人クラブはそうなんだけど、結局、いろんなことが、もしかしたら、それに当てはまるかもしれないよっていうとこで、考えれば、すごく大きな一つの事例なのかなと思うんですよね。だから、老人クラブという方に当てはまるのは何かとか、新しく、みんなが、それぞれ個々で楽しんでもというのは、何であつたりというの、ちょっと、連想させていくと、こうい

うのが新城に合ってる形みたいなのが見えてくるのかなと。

○鈴木延良委員 意外とね、グランドゴルフやりたいから老人クラブに入ってるとかという人も見えるんですよね。元気な人たちはね。

○井上森林課係長 そうですね。何か、目的を持って参加するとか。昔は大きな、いろんなことやるところにポッと所属する感じだったんだけど、やるから行くみたいな思考に皆さんが変わってきてることもあるかもしれない。

○山本勝利委員 これ、一つ、産業とはちょっと関係ないかもしれないけど、たとえば、中心部と周辺部で、たとえば、今、社会福祉協議会あたりで福祉バスなんていうのを。周辺部の利用率が物凄く高い。というのは、やはり、買い物、それから、グループをつくって、外へ出て行く。旅行へ行くとか、そういうことができるということは、話し合いができるとか。いろいろそういう形で使ってる。だから、周辺部では、その辺の利用率が高いけど、中心部ではそういうことがないんですね。産業とちょっと関係ないんですが。一つの人口問題という形で。その辺のところ。何か、こう、何て言うのかな。

○加藤直詳委員 でもそうやって、中心部にバスなりなんなりで行ければ、そこで買い物ができるという。

○井上森林課係長 結局、何か、乗り合った人が仲良くなっちゃって、行くまでに楽しいから、余計に乗っちゃうという。そういうのもあるんですかね。

○山本勝利委員 たとえば、地域によっては、家が離れてますよね。なかなか、すぐ、会話ができるというような状況じゃないものですから。そういうグループがすぐまとまる。それによって、そのグループによって、買い物とか、あるいは、温泉に行くとか。そういう意味で、利用できるという形。それも一つ

の活性化になってるのか。今、産業とは関係ないのかもしれないですけど。

○井上森林課係長 どうつながるかかわからないですね。

○山本勝利委員 それも一つの現象なのかなっていうので、今。準限界集落の利用率が結構、高いというのは。

○井上森林課係長 そうですね。地区の方たちなんか、割と、地区で固まるよりは、その地区の中でも、趣味の合う人と固まって、一緒に行動する。そういうのが多いんですか。皆さん。ご自身のやり方でも、周りを見ててもいいんですけど。同じ集落だから一緒にというよりは、集落の中でも、あの人たちと、これをやる人たちだとか。両方かな。

○鈴木延良委員 何か、一つ、同好会みたいなやつをつくるんだったら、やっぱり、人間関係が物凄く大きなものをつくるよりは、特に、若い子は、大きいグループよりも、小さいグループで、個人で動く方がいいという。一番、僕、会社において、はっきりしたのは、昔は、慰安旅行なんかありましたよね。とりあえず、1,000円ずつ毎月積み立てて、あとは、会社で行くときに、一人、15,000とか、20,000ぐらいを補助して、自分で積み立てたお金でいきましょうということで、目的で積んでるわけなんです。でも、さあ、いざ、そういう委員会をつくって、どこへ行くか。みんな、あれして、だんだん、絞り込んでいくときには、いったときには、さあ、ここに決まりましたけど、って言うと、100人いても、そこで、行きますっていうときは、最初は、90%ぐらいおるんですよ。それが、だんだん、絞り込んできたときに、もう、半分以下になっちゃって。さあ、いよいよ日にちとあれが決まってきた、どこへ行くっていったときには、最初はバス3台ぐらいを予定しとったのがね、1台も危なくなっちゃってね。結局、最後は、もうお金を返してもらった方がいい。僕は、自分で好きな方

へ、自分で12,000円、1年間で12,000円をもらって、自分で遊びに行く。会社で10,000円も、15,000も20,000も補助してもらって、みんなと一緒に行くよりは、一人で行った方がいい。そういうようなのが、物凄く、やっぱり、はっきり出てますよね。結局は、多分、よその会社なんか、そういう慰安旅行というのはなくなってきてると思いますよ。だから、難しいですよ。若い人たちを集めるというのは。

○加藤直詳委員 団体旅行は嫌なんだよね。

○山本勝利委員 観光の活性化っていても、つながらなくなっちゃう。

○加藤直詳委員 でも昔みたいに、みんなが大部屋に入るなんてのは、みんな、もう嫌ですから。まち場へ行ってビジネスホテルで、一人。

○鈴木延良委員 わかるでしょ。会社の慰安旅行なんてのは。

○加藤直詳委員 今の時代はないでしょ。

○山本勝利委員 ないでしょうね。

○加藤直詳委員 たまに、忘年会とか、そんなシーズンにやるぐらいですよ。

○片桐商工・立地課長 団体でも、プライバシーの部分は、あって団体。なら来るかもしれんけど。

○加藤直詳委員 それこそ、温泉旅館のシングル部屋でもあれば、それはそれなりの呼び方の一つかもしれませんけど。

○鈴木延良委員 そうでしょうね。最後なんかはね、やっぱり、目的地が、3カ所ぐらいに分けて、東京、関東の、ディズニーランドとか、それからあと、京都とか奈良だとか。もうちょっと遠く行こうとか。というような形で集めて、10人か15人ぐらいで行くようなことになって、今はもう辞めちゃいました。そういう、何か、集めるというのが。それともう一つ。人口の減少というのは、若い人が少ないという、それを呼び込もうというのは、いろいろそろってあるもので考えたら

いいと思うんですけど、そのために、昔のような人口になってるかと言うとそれは、ならないですね。

○井上森林課係長 ならないですね。

○鈴木延良委員 だから、減っていくことは大前提にあって、若い人の比率を、どの程度カバーしていくかという形になっていくんじゃないと、よっぽど、考えて行かんと、難しいかなと。

○片桐商工・立地課長 鳳来寺とか、歴女とか、神社とか、今、流行ってるし。何か。その仕掛けを、PRをうまくして、そういうもんで、若い人が乗るような方に持って行くような、企画を考えないといけないでしょうね。

○鈴木延良委員 そうですね。

○片桐商工・立地課長 何か、そういうもので、くつついて、体験して。合戦場もあるし。今、神社やなんか、よく、伊勢とかなんでもそうだけど、あそこだと、東照宮だもんね。ひっかければ来るような気がするね。こういうブームになると。

○井上森林課係長 そうですね。

○片桐商工・立地課長 ちょっと、大きなことを書きちゃって。三大東照宮。

○井上森林課係長 そうですね。

○片桐商工・立地課長 だもんね、本当は。

○加藤直詳委員 あと、この中の意見でも多いのが、そういったところで、観光客が少ないと、何か、だれも言わないんじゃないかな。まず、一つは、いろいろ、農業もひくくめて、すべてにおいて、地域のブランディングっていうのが一つ。

○山本勝利委員 ないですね。

○加藤直詳委員 農業の部分、観光の部分ともひくくめたようなところで、一つ課題がその辺りで出て、共通してるのが、ブランディングなのかなというふうに、課題として。生活とは離れた。今、大体、何か、生活の部分の話になってますけど、そこから一步、多

分、内側に、より観光とか、そういった活性化の部分での話になってくると、地域のブランディング。それから。

○山本勝利委員 林業もそうだね。それに、農林業だね。たいてい、ないね。ブランディングというようなものは薄めちゃって。

○加藤直詳委員 観光客を呼び込むというところがあるのかなという。

○片桐商工・立地課長 あとは、団塊世代がせっかくだくさんおるので、健康で動いてもらった方が医療費もかかからないかしらんし。絶対、今の団塊の人たち、うまく活性化、活用できる。

○鈴木延良委員 そうなんです。医者行くのが仕事みたいな人がね。何か、趣味とか、興味持ってやることがあれば、その分は。

○片桐商工・立地課長 ボランティアでもいいし、少しもうけてもいいけど、何か手を出していけるようなところがいいかなと。

○鈴木延良委員 元気になりたいと思って何かやるのと、好きで一生懸命で何かをやって健康になっていくって言ったら、やっぱり、医者に行くことを忘れて夢中になるようなことをやってた方が、健康にはなりますよね。元気になりたいから、元気になりたいからって思ってやってもなかなか。

○片桐商工・立地課長 地域自治区もあるんでね。そういうところで、年寄り足がないから、交代で、地区で、少しお金もらって、ボランティア半分で、送り迎えするとかね。

○鈴木延良委員 そうですね。

○片桐商工・立地課長 そうすれば、自分も動けるし。何か、そういうような活用もいいと思うんだけどね。

○鈴木延良委員 だから、そういうのが、先ほど言われたような、観光の面で、どういうものを目玉にして、たくさんあるから、そういうものを全部、出して、その中で、こういうところはちょっと呼べるではないとか、人をPRするとか、やったらいいんじゃない

かとか、観光で人を呼べるのか。その場合は、そこに住むって人は限られるかもしれないけど。よそから、人を呼ぶってことが少しでも。

○片桐商工・立地課長 仕掛けを考えることは必要だね。

○鈴木延良委員 あとは、今、農林業で、農業なんか、人の畑を借りても、簡単に、自由に耕作できるようなのか。

○片桐商工・立地課長 資源の活用といえれば活用ですよ。

○鈴木延良委員 そういう部分を上手に考えていろいろなものが出てくると思うんですけどね。年寄りなんか、増える、増えるといっても、それは限度があるからね。30年先にいけば、減るのはもう目に見えてますしね。

○片桐商工・立地課長 そうそう。減ってくるもんね。元気に動ける世代のうちは、動ける何かがないのかなと。

○鈴木延良委員 高齢者の何て言うんですかね。福祉村みたいな。

○加藤直詳委員 解決策みたいなのを、赤字とか、何か、違う字でやっちゃいますかね。補助金。

○井上森林課係長 補助金は、じゃあ、赤で。

○片桐商工・立地課長 医療費がかかっちゃうので、困る。動ける人で。

○鈴木延良委員 動ける人。一人でね。住めるような人。そういう、その何て言うんですかね。老人のそういうアパートみたいなものと。そういう中で、年寄りが元気に暮らしていけることができるような村をつくったらいいのかなって。

○片桐商工・立地課長 市民病院ボランティアが手伝っている。元気・・・高齢者でも、そういうような場で活躍の場があるといい。その後、自分もそうなってくるって。

○井上森林課係長 これは、老人クラブの

何か、なくなっちゃったの、理由というか、あって、その辺の仲間ですね。好みの合うものということ。これはただ、キーワードです。

○加藤直詳委員 福祉なのか、産業振興なのか。ちょっと、この辺が。

○井上森林課係長 そうですね。ただ、ターゲットはこの辺だよという見方でもできるし。

○加藤直詳委員 ブランディングとか。

○井上森林課係長 これは、何だろ。目指していく対象物の、どういくかみたいな。これは全部、産業を書き出してみたいんですけどね。

○加藤直詳委員 そこから、観光客がたくさん来る。何か、そういうふうにしちゃった方がわかりやすい。

○井上森林課係長 観光客が。観光客の増加。

○加藤直詳委員 観光客の増加。

○井上森林課係長 観光は観光客の増加ですけれど、たとえば、商業は何が改善になるのでしょうか。

○加藤直詳委員 そうですね。

○山本勝利委員 買い物という。

○井上森林課係長 買い物の増加。買い物客の増加。

○熊谷農業課参事 お金を落としてもらわないと。

○井上森林課係長 はい。組合長さん。組合長さん。すいません。観光は、たとえば、観光客が増加すると、ある程度、振興しますよね。商業も、お客さんが増加すると振興する。農林業は、何がふえると振興するのでしょうか。

○鈴木延良委員 農業やりたい人が出てくる。

○井上森林課係長 やりたい人がふえると振興しますかね。

○山本勝利委員 それはやっぱり、たとえ

ば、作手でやってる農業だと言うと、たとえば、トマトだとか、あるいは、そういう地域の特産。特産品とか、そういうのがきちんできれば、農業はある程度、活性化してくるし。

○井上森林課係長 特産が。じゃあ、売れる商品がふえると活性化するみたいな。

○山本勝利委員 そうですね。それは林業についても言える。

○井上森林課係長 言えますよね。

○山本勝利委員 たとえば、三河杉なんていう、有名ブランド化してきたんだけど。ただ、問題は、虫の問題で、スヤスヤスヤとなっちゃってるような状況なもんですから。だから、そういう、ある程度、そういうのが、PRされて、広まってくると、やっぱり、あそこのブランディングなのかな。ああいうものもやっぱり。

○井上森林課係長 そうですね。売れる商品がふえるは、やっぱり、商業も共通でしたよね。

○山本勝利委員 そういう意味でやってくると、随分、違ってくるんじゃないかなと。

○井上森林課係長 だから、ただ、単に、農業活性化と言ってるよりは、売れるものをつくる政策とか。それも一つ。

○鈴木延良委員 それも大事だと思うよ。売れるものをつくると、売れるものをつくるということをやっていくことが大事だよな。自分でつくるっていう。この生活する拠点を新城市に置いたら、それで、働きながらとか、奥さんは、農業を少しは、家庭菜園みたいなので野菜をつくりながら、やれるというのも、物凄く、僕は、楽しみだと思うんですけどね。売れるものは、大事なことだけれど、売れても、自分のところで食べるものというのがね。

○井上森林課係長 楽しいもの。

○鈴木延良委員 今までは、そんな、たとえば、一戸建てか、アパートか知らんけど、そういう人たちが住んでて、農業なんか全く、

全部、野菜なんか買ってた人たちが、新城に来たために、家庭菜園があって、日常の食材はほとんどとは言わないにしても、ある程度はまかなえるというのは、僕は、そういうのは、僕は、価値の中では。

○片桐商工・立地課長 新城に来てくれてっていうのは、そういうやつを指導してやって、つくれるようになるといいかもっていう。

○鈴木延良委員 畑付きの、菜園付きのそういう住宅を売り出すとか。それだったら、なんとかならんのかなと思ったけど。

○片桐商工・立地課長 あとは、つまものがすごく、新城ってあるよね。つまものって。山から取った。あれすごいよね。割と出てるな。

○井上森林課係長 つくで産が一生懸命やってますよね。そうですね。

○片桐商工・立地課長 もっと売り込んで、大きな新城ブランドにしてもいいかなと思う。つくらんでも、山からとってくれば。

○鈴木延良委員 そうですね。それと、この辺の人たちというのは、冬。11月から12月にかけて、もうかなりの人が、シルバーにおる人たちでも、半分ぐらいの人は、ミカン切りに行っちゃうんだよね。本当に、素人でも仕事ができるぐらい。

○井上森林課係長 そうか。言えますね。

○鈴木延良委員 そういうような、何か、あるとまた、いいのかなと。

○井上森林課係長 そうか。

○山本勝利委員 要するに、現金収入。

○井上森林課係長 現金収入ですね。

○鈴木延良委員 800円ぐらいで、売れるんだけど、3kgぐらいのお土産を買うのが魅力だとかね。だから、そういうふうに、向こうへ。三ヶ日町に。こっちで、何か、そういうのを、本当に、特産品みたいなのが何かできると。で、観光にもなるようなね。観光農園みたいなね。

○山本勝利委員 中小企業の元気になる。

やっぱり、ブランディングが出てこんじゃないのかな。元気になれない。やっぱり、そこへ結びついちゃうのかな。その補助金って言ったって、地元の金融機関がきちんと補助金を出してくれるという体制を整えてくれれば、一番、いいんだよね。たとえば、国の政策でもって。

○山本勝利委員 金融機関。地元の金融機関。だって、地元の金融機関だって、幾つぐらいあるんだ。

○井上森林課係長 結構、ありますね。

○山本勝利委員 結構、あるね。

○井上森林課係長 支店が多いっちゃうのは。大きくくくると、信用金庫さんと農協さんと、都市銀という感じですけど。

○山本勝利委員 そういうところが、ちゃんと、そういう補助金を国の政策に従って出していただけると。その結びついてくるんじゃないのかなと思う。

○鈴木延良委員 はい。観光地に来るのか。いや、まあ、何か。温泉が良くてくる。

○加藤直詳委員 うちなんかも、どちらかと言うと、地域というよりも、宿に呼び込めます。

○鈴木延良委員 宿にね。そうだよな。

○加藤直詳委員 正直、そういう方法で。

○鈴木延良委員 情報を調べて。この宿屋に泊まってみたいとか。

○片桐商工・立地課長 イノシシとか、そういう肉って、今、流行ってるけど、そんなに商売になるようなのほど獲れるのかな。

○鈴木延良委員 それはなると思いますが。ただね。

○片桐商工・立地課長 なる。じゃあ、使わないと損だね。

○鈴木延良委員 ただね。

○片桐商工・立地課長 自然にあるものとか、山にあるもの。

○鈴木延良委員 今、多分、地元のイノシシなんて、商売にならんでしょう。

○加藤直詳委員 だめ。安定的に入って来ない。本当に。

○鈴木延良委員 それがね、僕、ちょうど隣の人が、イノシシを60頭ぐらい飼ってるんですよ。

○片桐商工・立地課長 飼育だね。

○井上森林課係長 特産品に書いておきました。

○鈴木延良委員 純粋のイノシシをね。それはね。

○井上森林課係長 補助金というよりも、融資制度を。地域独特の。

○鈴木延良委員 ちょっと、地域活性化の中で何とかならんかなと思ってるんですよ。

○井上森林課係長 そうか、赤で書かなきゃいけない。この辺もじゃあ、赤なのかな。特産品開発も赤なんですかね。

○鈴木延良委員 価格的にやっぱり、コストがかかる。飼料だけでも20万ぐらいかけてる。60頭ぐらいおるんだけどが。倍ぐらい。

○加藤直詳委員 これ幾つあるかな。農業手取りと、いろいろな、ミカンと肉……。学校に特産品開発……。

○片桐商工・立地課長 コストがかからんでもうかるのがいいよね。山からとったもの。

○井上森林課係長 ちょっと代わってもらっていいですか。

○鈴木延良委員 今、イノシシの柵を借りているんでしょ。地域協議会でもね、イノシシの柵を借りてるんですよ。方々の地区で。それでね、名前を言うと、睦平の地区なんか、20何頭獲ったって。

○片桐商工・立地課長 柵をいっぱい置いて。

○鈴木延良委員 いっぱいじゃない。たくさん。

○片桐商工・立地課長 入ってくるんだ。

○鈴木延良委員 二つや三つあるかもしれんけどね。地元の人がそういう猟友会に入っ

て、資格をとってね。

ただ、僕は、旅館では、あまり、ぼたん鍋はあまり、買ってくれないんじゃないかな。やっぱり、安定的というのは、商品の価値がやっぱりね。

○片桐商工・立地課長 それでも、鹿の方がいっぱいおるはずなんだけどね。鹿も。自然にあるものをもって売れるといいなって。そういう動物とか、つまものとか。もみじの葉っぱ、料理への添え物に。料理につけるもの。鳳来なんか、確定申告で農業仲間で、いっぱい売り上げがある。

○鈴木延良委員 おばさんたちが、一生懸命やってるのが、今、インターネットで、何とかの花とか、何とかとか、何か。

○片桐商工・立地課長 。

○鈴木延良委員 そうそう。そういうようなのも結構、つくってますよ。

○片桐商工・立地課長 インターネット、商売いいよね。案外、みんな、今、いろんなもの探してくるよね。

○鈴木延良委員 みんな、たくさんそういうの、屋敷の中へ植えて。この間、うちのがその処理に困っちゃうくらいにね。だから、そういう。

○片桐商工・立地課長 通信販売で、インターネットの販売でも。そういうシステムだけ、自分たちでつくれば、割と、見て、注文してくる人、全国で多い。今の時代はね。

○事務局(谷川) ネタはいっぱいある。

○加藤直詳委員 もう少し、赤字の何かを出せると。でも、一つ、今まで話した中で、これが一つ核としてって、その理由って、このことの相関関係もあるし。

○加藤直詳委員 こことこの関係もあるし。井上さん、少し書いてます。

○井上森林課係長 私の悩みは。

○加藤直詳委員 こんな流れていっちゃっていいのかな。

○井上森林課係長 いいんじゃないですか。

すごく、まとまってるじゃないですか。

○加藤直詳委員 だから、一つは、生活分野として。

○鈴木誠委員長 きれいにうまくまとまりしたね。

○井上森林課係長 加藤さんが今、形にしてください。

○加藤直詳委員 いえいえ。ちょっと僕の方で、ここに観光客の増加というところに、やっぱり、観光課は、やっぱり、観光客の獲得のための観光課でといたいところで。

○井上森林課係長 そうですね。

○加藤直詳委員 ちょっとそれ、入れ込ませてください。

○山本勝利委員 ただ、たとえば、地域の祭りなんていうときは、みんな、意外とわーっと集まって、とにかく、どこからそれだけの活力があるかってくらい。

○井上森林課係長 ですね。

○山本勝利委員 来ますね。ということ、新城市は、人口減少して、もうどうにもならんような町じゃなくて、そういう、何て言うんだらう。絆というか、そういうものは、底辺にきちんと残した状態で、今、そういう状況に落ち込んでいるんじゃないかと。だから、もし、そういうものをうまく、活性化とか、あれにつなげることができると、何か。

○片桐商工・立地課長 今あるものを活用せにゃいかんよね。ないものをつくらうじゃなくて、あるものを活用せにゃいかん。

○山本勝利委員 そう。人口が減っている云々じゃなくて、それをうまく利用して、そういう力というのが、やっぱり、あるものだから。それまで、なくなっちゃったら、困る。だけど、それをうまく利用すると、何か、活力を引き出すことができるのかなというのは、ふと、見てて思ったんだけどね。

○片桐商工・立地課長 観光資源でも、本当、うまく、切り口を変えて活用すれば、今の時代にのっかっちゃうような何かを。ある

ものを使ってとか。さっきも、団塊世代の人が、ちょうど増えたら、元気なうちにその人たちを使えるような町にするというのは、いいよね。あるもの、使っていないかんよね。

○鈴木延良委員 たとえば、何というのかな。そういう猪鍋だとか、蛸だとか、いろいろあるわけですよ。時期によってお客が呼べるような。

○加藤直詳委員 そうですね。

○鈴木延良委員 だから、そういうのだったら、蛸をもうちょっと増やすようなことをもっと本格的に、みんなが。

○片桐商工・立地課長 愛知県の中で一番だっというような。

○鈴木延良委員 そうそうそう。そういうような。

○片桐商工・立地課長 そうだよ。あるものをちょっと拡大するよ。

○鈴木延良委員 やっぱり、やって、蛸を増やすだとか。イノシシを獲って、猪鍋をできるとか。また、いろいろなものがあるわけ。山芋だとか、自然薯なんかをつくったりとか。

○片桐商工・立地課長 PRするものはいっぱいある。

○鈴木延良委員 そこをみんなが、上手に目標を定めて。じゃあ、俺んところはこれをやればとか、いうような形で。いけると。

○片桐商工・立地課長 おもしろがって入ってくるといいね。

○鈴木延良委員 そうそうそう。本当に。そういう人を募集してもいいと思うんですよ。

○片桐商工・立地課長 ちょっと、ほら吹き具合を大きく。風呂敷を広げちゃってもいいかもしれない。あるものを。

○鈴木延良委員 俺は、海老だとか。門谷近所なんかは、蛸が今は、すごい、いいですよ。

○加藤直詳委員 そう。

○鈴木延良委員 本当に立派な蛸がたくさん出るの。そういうところを広げるっちゃうのか。

○片桐商工・立地課長 千枚田とか、川売の梅も相当、有名になった。もうちょっともうかるよ。

○鈴木延良委員 あそこの人だけじゃなくて、やっぱりね。この新城市のそういう梅の名産だとか、いろいろあるわけじゃないですか。そういう部分で、一つ一つをもうちょっと取り上げて、みんなで柱にしていけるよ。

○加藤直詳委員 その辺りもひっくるめたブランドイメージ。

○鈴木延良委員 観光がね。

○加藤直詳委員 もそうだし、何か、一つにまとめた何かが、一つのブランドイメージというのが一つ。

○鈴木延良委員 そうですね。そういうのが欲しいですよ。

○加藤直詳委員 何か、少し、もしこの辺り。こういった赤字の、何か、対策打てるようなものとか、出していくと、またどこかで、ひょっとすると、これがさらにつながっていくのかもしれないんですが。お知恵あれば。買い物する場所がない。もしくは、買い物する場所がないから、みんな、市外へ出て行ってお金を使っちゃう。市の小売店。小さな、昔からやってらっしゃる商店には全然、行かず、みんな、ピアゴ行ったり、スギ薬局とか、そういった大手の、どうしてもそういったところで、また買い物しちゃうというのも、この辺り入っていると言いますか。

○鈴木延良委員 そうですよ。ピアゴだけじゃなくて、もう今ね、浜松、行ってますよ。

○片桐商工・立地課長 ないものは、しょうがないもんね。あるものは新城市で買ってくれるといいんだけどね。

○鈴木延良委員 新城市をおいて、向こう行

っちゃう。

○加藤直詳委員 便利だから、みんな、大きな店行って、小さなお店よりも、大きな店行って、みんな、結果、買いたくなっちゃう。そんなところへ行ってしまう。空き家。そして、これと関係しますけど、お客さんがいないから、みんな、お店、閉めちゃう。人も少ないから、なかなか商売も続けられないというところ。それから、労働力に。こことちよっとまた、かかわって来ますが、女性の社会復帰。お産とかされてとか。そんなところですかね。若者を生かす。若者を増やす。労働力不足と、その働き手がなかなかいないという一方、働く場所もないという。非常に。交通網、新東名ができたり、より、交通網をどうやって、これから、整備していかないと、なかなか難しいんじゃないとか。それから、医療、福祉の充実の中に、ちょっと、高齢者の方々の課題をだ一つとまとめさせていただいたんですが。何か、少し、赤字で書けるような、知恵のようなものがあれば。

何か、この辺とかも、働く場所がない。一方で、働いてくれる人がいない。若者の仕事がないとか。何か、上手に結びつけられるような方策って何かないんですかね。

○片桐商工・立地課長 働く場所があっても、外へ住んでしまうと、来ないですよ。

○加藤直詳委員 そうですよ。

○片桐商工・立地課長 一番、そういうところが難しく。閉塞的なところで、いつまでたっても、前に進めないの。今、言ってるみたいな、新城のブランディングするとか、あるものを生かしていく方をまず、考えていた方がいいのかなという気もするよね。動きやすい。まず、動いてこう、って。

○鈴木延良委員 観光資源はあるもんね。

○片桐商工・立地課長 そう。観光資源を生かすとか。人材を生かしていく。若い世代じゃなくて、元気な前期高齢者になる人みたいな人も増えてるなら、使いたいとかね。別

の切り口の方がいいような気がする。

○加藤直詳委員 そうですね。

○片桐商工・立地課長 あとは、住むのは、なかなか、また別の行政の仕事になるかもしれない。あとは、市内で買い物して、っていう。できるだけ。買い物、遊びは、浜松に行ってもいいけど。食べ物とかなんかは、できるだけ、市内にお金が落ちるようにすべき。

○鈴木延良委員 でも、引佐辺りなんか見ると、住宅なんか、物凄いな。そういうふうに開発するところが、新城なんか、ないかね。何か、住宅地に、開拓をするような土地っちゃうのが、新城とか、鳳来だとかないですよ。

○加藤直詳委員 宅地開発ができるようなところはなかなかね。

○井上森林課係長 そうですね。

○山本勝利委員 小笠原さんが、全部、規制が掛かっているんで。整理しろ。住宅を建てようと思ったら、規制がかかって、住宅ができんって。

○加藤直詳委員 宅地になるような場所がないんですよ。

○井上森林課係長 そうなんです。規制がかかっちゃって。

○片桐商工・立地課長 同じような建物を買うだけなら、そこまで行かなくていいなと思うし。富岡の向こうの方が近いって行くらしいけど。

○井上森林課係長 土地利用の規制を緩和するみたいな。土地利用法、都市計画法。都市計画法で規制がかかっているの。

○鈴木延良委員 浜松サービスエリアで降りるんだよね。降りれば、本当に、市内まで、そんなに時間がかからないんじゃないですか。

○片桐商工・立地課長 そういう傾向だもんね。やっぱり、幾ら、中で中で、って言っても無理だよね。市民自体がそっちへ行っちゃうんだもん。

○加藤直詳委員 何でもあるんだもんね。

豊橋市は行かんでしょね。

○片桐商工・立地課長 だもんで、空き店舗をどうしよう、どうしようたって、逆だもん。無理だよ。やる人も、もうもうからへんから、やれへんし。

○鈴木延良委員 空き家なんかもそうだけでも、本当に空き家なんてのは、人が住んでくれたら、家賃なんか、要らんとするんだけどね。住んでくれるだけで、うちは、絶対、維持、管理、全部できる。

○片桐商工・立地課長 ただ、その人は、仏壇が置いてあるので、まだ、貸せるわけにいかんとか、割と、そういう、持ってる人がなかなか離さないというのもあるみたい。

○井上森林課係長 そうですよ。それが。

○片桐商工・立地課長 商工会に聞くと、なかなか、それは、簡単に貸してくれるもんじゃないぞって言われる。

○井上森林課係長 そうなんです。ご自分のお家を貸すって考えたときに、さて、すぐに貸せるかっていうふうに考えると、わかりやすい。

○加藤直詳委員 無料なのか、何らかの形で補助が出るとか。

○鈴木延良委員 だってね。空き家なんかで、そのまま置いとけば、やっぱり、草刈りだとか、木を切ったりというのが、シルバーに結構、来るもんで、そうすると、年3回とか、4回とかやれば、それは、6万や、多いところじゃ、10万ぐらいいっちゃうね。畑でもそうだけど、田んぼでもそうだけど。

○加藤直詳委員 草刈りで。1回の草刈りで。

○鈴木延良委員 1回は、そんなにかからない。1万か2万くらい。それは、1回じゃ済まんもんで、草刈りは。それで。

○加藤直詳委員 何度か。

○鈴木延良委員 近所が何にも言わんとところはほったらかしてるんだけど、近所で厳しく言ってくるところは、シルバーや人を使っ

てとか、ほかの人を頼んでとか。だけど、そうすると、空いてるだけでも、何万も使わなきゃならないから。ただで入ってもらって、管理してもらやあ、家は絶対、丈夫ですし、周りはきれいになるし。

○片桐商工・立地課長 先祖代々が、なかなか貸してくれん言うてね。

○井上森林課係長 多分、入った方も、自分なりに中を直したいとか言うて、ますます難しい問題になっちゃたりして。そうなんですよね。

○片桐商工・立地課長 あと、新聞にも書かれたけど、道の駅に新しいお菓子を開発してって言ったら、もう10年早けりゃよかったとか。後継者不足もあるかもしれんして。そういうふうになってっちゃうってことだよ。今からじゃ、開発なんて。わしらじゃ、無理じゃって言う人もおるかもしれんね。

○鈴木延良委員 若い人の代になれば。

○片桐商工・立地課長 若い人は、やっていかんだよね、それは。お菓子屋さんを。

○鈴木延良委員 だから、それは、人に貸すなり、利用してもらえんという発想は。

○片桐商工・立地課長 そういう発想になってくればいいけど。そうならんと、多分。

○山本勝利委員 それは、言ってる。さっき言った、後継者が不足しとって、結局、もう、何とかしたくてもだめだから、もう辞めちゃうって言う。

○片桐商工・立地課長 もうからなかったら、辞めちゃうというの。

○山本勝利委員 結構、そういうところが新城は多いみたいですね。

○片桐商工・立地課長 次、やってっても、これでまた、次の世代へ行っても、もうからない。設備投資で終わっちゃうから、もうやめた。

○加藤直詳委員 もう辞めたって言う。

○片桐商工・立地課長 だから、なかなか

難しいよね。ああいう問題あると、そこから進めないままになっちゃうよね。あるものを活用した方がいいかなというのね。

○鈴木延良委員 もうまとめなんかな。

○片桐商工・立地課長 ですよ。時間は見えるもんね。大体。どういう方向性というのわかってくるもんで。ある程度は。これでまとめれば。

○鈴木延良委員 本当に、アクセスが良くなり、新東名だとか、三遠南信道ができたり。人が本当に入ってくるか。

○加藤直詳委員 そうですね。逆に外へ流れていく方が多いかもしれませんね。

○鈴木延良委員 そういう受け入れをちゃんとやらないと。通過点になっちゃうからね。

○加藤直詳委員 僕らも、新東名ができれば、湯谷温泉はかえって、名古屋から日帰りばかりになっちゃって泊まらなくなるかもしれませんし。どうなるのか。ふた開けてみないと。本当は、ちゃんと泊まってもらうための施策というのも当然。

○鈴木延良委員 ですよ。

○加藤直詳委員 それこそ、昔、本当は、蛸というのは、すごい集客になったんですよ。昔の10年くらい前までの6月というのは、それでみんな、すごく、お客さんの集客になってたんですよ。ただ、今、蛸は、全国みんながやっちゃうので、全国どこへ行っても蛸っていう。もう今、幾ら、蛸って言うても、もう今、昔の半分くらいですね。お客さんは。

○鈴木延良委員 でしょうね。

○加藤直詳委員 一時は、よかったんですよ。

○鈴木延良委員 蛸にかわるものをしないといけないですね。カブトムシもだめか。

○片桐商工・立地課長 外国人の中継地点だったら、やっぱり、日本のおもしろい歴史の場所なんていうのも寄ってもらうのもいいかもしれないね。ほかへ寄るぐらいなら、ここへ寄ってもらった方がおもしろいからって

いう。目立たせりゃいいっていう。

○鈴木延良委員 そういう意味では、来やすくなるよね。インターができてくれば。だから、次はもうけるためのものを。

○加藤直詳委員 だから、少し、その辺の解決策を何か、出されたらいいのかな、なんて思ったりしますけど。

○片桐商工・立地課長 多分、金、かからない方法があれば。

○鈴木延良委員 それは、やり方はいろいろあると思うんだけど。今は個人でやってるから。

○片桐商工・立地課長 自然で大きくなってふえてくれりゃいいけど。

○鈴木延良委員 ほったらかしでね。

○片桐商工・立地課長 でも、そうです。病気とか何かに影響する。

○鈴木延良委員 そうですね。野菜なんか。

○井上森林課係長 条例の目的としては、地域にあるものを生かすみたいなどころにくんですよ。

○片桐商工・立地課長 生かすっていう。

○山本勝利委員 それって必要だと思うよね。もったいないよね。掘り出して、外へ出せば、使えるんじゃないかなっていう。

○片桐商工・立地課長 インターネットに載っていると、みんな、探してひっかかる。お取り寄せなんていうのもみんな、いっぱい知ってるから。

○井上森林課係長 そうですね。

○片桐商工・立地課長 何か代わったものないかって。

○加藤直詳委員 いまいち、具体的には。買い物に。いまいち。日用品は買い物に出るけど、少し、家電製品とかだったら、結果、ネットで買ってしまってるという。

○井上森林課係長 そうですね。今、売ってないですもんね。家電屋さん。見本しか置いてなくて。

○加藤直詳委員 とりあえず、じゃあ、きょうは、このあたりで。

○井上森林課係長 はい。ありがとうございます。

グループ討議

【 Bグループ 】

○海野文貴委員 よろしくお願ひいたします。今、指名されたこのヒアリングの結果を基に、この中から一つの目標をどういう形のもの掲げて目指したらいいのかということと、それから、二つ目の強力に推し進める事項はどういったものが、目玉となるような事業、どういったものがあるか。それから、三つ目が、これはという内容のものをピックアップしていこうということで、あるようでございます。

どうやって進めていったらいいんですかね。一つ。

○川合産業政策課長 そうですね。もう、どんどん発言していただければ、こちらの事務の方で、書かせていただいて、こういう形でどうでしょうかという話をさせていただこうと思いますので、そういう形でちょっと進めていけたらと思います。

○海野文貴委員 それでは、これ、全部で73項目あるんですけども、この中で、それじゃあ、時間的にはどんなものですかね。

○川合産業政策課長 4時25分までが、一応、区切りをつけていただくという形で。

○海野文貴委員 50分ほど、そのくらいあるわけですね。

○川合産業政策課長 ただ、休憩を少し入れていただいているということですので。

○海野文貴委員 そうですか。それじゃあ、全部で5枚あるので、一つが10分だということですので、5分ちょっとぐらいで、ざっくり、内容的に順番に見ていってというような形でよろしいですかね。

それでは、最初の部分で。一番、最初の、小売業の方ですね。この方ですね。女性が社会に復帰できると書いてありますが、どうしようかな。これ。こうやってもあれなので。

このページで、この1番、2番が小売業の方。この二つについて、ちょっと何か、内容について、ざっくりちょっと見ていただいて。そして、1, 2, 3に関する事で、気がつく点等があれば挙げていただきたいなと思うんですが、どうでしょうか。

○菅谷浩久委員 この三つのクエスチョンに関するものは、どういうふうにしますか。この三つ。

○海野文貴委員 三つのクエスチョン。

○川合産業政策課長 6、7の。

○菅谷浩久委員 6、7と、あと、その他。

○川合産業政策課長 その他の自由意見ですね。

○菅谷浩久委員 そこをどういうふうに。

○川合産業政策課長 そうですね。条例にのせるべきもの。

○菅谷浩久委員 7は行政に求める問題だということだと思いますので。

○川合産業政策課長 はい。なので。

○菅谷浩久委員 大体、ダブってるところはあるとは思うんです。

○川合産業政策課長 ありますね。特にキーワードとしてのこの1、2だけで言えば、この女性っていう部分の内容というのは、この頭出しの部分で。いうやっばり、今までの部分で、どういう形で、今まで進出していなかったもので、そういう人たちを進出させていこうというようなことが、女性の社会参加とか、雇用への導入みたいなものというものは、出ていけるかなというふうには思うんですけど。なので、そんな形で見てもいいながら、いければなというふうには思うんですけど。

○海野文貴委員 ちょっと目につく単語としては、今、おっしゃられたような、女性と

か、それから、町並みのシャッターとか、何か、非常に、産業。新城の、多分、この方たちは、小売業の方なんだと、新城の町の中の方、しかも女性の方だというふうに思うんですけど。この辺りの人たちの産業として、どう元気つけていくかという部分について、何か、ご意見をいただきたいなという。

○菅谷浩久委員 でもやっぱり、小売業を回すんじゃないんですけど、要するに、食べ物でいけば地産地消というような形で、要するにできる限り、新城の中で買い物をしてもらえるように、どうすればなるかというようなところを考えていかなければいけないと思いますけど。

○海野文貴委員 シャッターが降りてるとか、買うところもないというお店も閉めたりというような状況の中で。今、軽トラ市とかそういうようなことをやっておるんですけども。女性の力を活用して、何か、町の発展みたいなような視点で言っていただくのはどうでしょうか。ざっくり見ると、ちょっとマイナスの意見ばかりであれなんですけど。

○菅谷浩久委員 女性で、今、やっぱり、年寄りも多いもんですから、そういう、助けるサービスというか。そういうものっていう、今、求められていますよね。

○海野文貴委員 なるほどね。助けるサービス。介護だとか。

○菅谷浩久委員 そうそうそう。介護だとか、買い物だとか。そういうような。

○海野文貴委員 それなら、やっぱり、どうしても、高齢化がどんどん進んでくると。

○菅谷浩久委員 そしたら、新城市として、何て言うんですかね。こういうところに、頼めるよとか、何か、そういう安心ネットワークができると、より分かり易いじゃないですけど。いいんじゃないかなと思うんですけど。

○海野文貴委員 なるほど。ここに何か、窓口みたいなのをつくって。

○菅谷浩久委員 そうですね。こういうも

のに関してはここと、ここと、ここみたいな。今、新城の中でものを回される。その一つの、女性も当然、もう今は、お互いに働いている人も多いですけど、それでも、まだ、仕事が少ないというのであれば、そういう雇用。○海野文貴委員 雇用を生み出していくという。ちょっとね。

○菅谷浩久委員 それには、やっぱり、そういう保育じゃないけども、子どものことだとか、そういう、それぞれがサポートしていけるような、体制的に、ができると、うまく回るのかなというのがあるんですけどね。だから、その働く女性に対して、子どもさんといえば、保育施設なんですけど、を充実させるとか。それにつながってくるんじゃない。

○海野文貴委員 だいぶん、子育て離れちゃったもんだから、あれですけど、今は、あれですか、新城市って、十分、保育とか、受け入れというんですか。十分、足りてるんですか。足りてるというか。

○菅谷浩久委員 今、選べるんですよ。保育とか。子ども園。

○海野文貴委員 そういうところにも何か、手助けできるような部分があるのかなという。よくわかりませんですけど。

○菅谷浩久委員 そうやって助けていくようなもので、目標を定めていく。そうすれば、目標も多分、出ると思いますし。と思うんですけど。

○海野文貴委員 権田さんは、どういう。

○権田知宏委員 すいません。前回、ちょっと欠席して、流れがあまりよくわかってないんですけど。ヒアリングのまとめをちらっと見せてもらおうと、先ほどのまとめであった、たとえば、人口が少ないとか、働き場がない、高齢者が多いとか。何か、いろんな、今、抱えてる問題が羅列してあって、これもほとんど同じだと思うんですけど。この委員会というか、審議委員会でやるのは、地域産業をどう振興していくかという内容だと思うので、

それに当てはめて考えると、ないものを今更言ってもしょうがないというところもあって、じゃあ、ないもので、どれを増やしていったらいいかというものを、この委員会でやはり考えていかないといけないと思うんですよね。

たとえば、地域産業と言えば、たとえば、観光だとか、林業だとか、農業というのが、多分、メインだと思うんですけど、それをやる上で、今、不足してるものは、たとえば、流通であったり、人であったり、地域で先ほど言われてたような、買い物ができないとか、そういうところもすべて含めて考えると、一番、重要なのは、やはり、高齢化で率が高くて、人が少ないというのが、多分、一番、最初に出てくると思うんですけど。じゃあ、どうしたら若い人たちをこちらへ呼べるかというような方策からまず、取り組んで考えていくということが大切かなと思ってまして。

同じような地域は、日本全国、何百、何千とあると思うんですけど、新城市だけの特色を出せと言ってもなかなか出せないものですし。じゃあ、その新城市に、ほかからでも、人を呼んでくるのか。たとえば、出た人をこちらへ呼んでくるっていても、なかなか難しいことだと思うので。その割に、私の中に答えがあるかということ、なかなかないんですけど。その辺から攻めていくとか、その辺をポイントにして考えていくことが大切じゃないかなというふうに思います。

ちょっと答えにも何にもなってない、私の個人的な意見ですが。

○海野文貴委員 やっぱり、多分、産業を、農業、林業・形の部分なので、そういったものを柱にして、足りないものをあと、サポート、流通の面だとか、そういった部分の、そういったサポートを、体型を組んで、そして、地域の大問題である高齢化という部分を解決するためには、周りから人を呼ぶというような話で。そのためには、やっぱり、若い人をどうやって呼び込むかという。そういった話

があったわけですから。

○権田知宏委員 この中にもありましたけど、外国人を入れてもらっていいという意見もありましたけど。

○・・・ 外国人。

○権田知宏委員 実は、地元の小学校が廃校になるので、その廃校を利用するのにどうだということ言われたので、外国の方をこちらへ呼んできて、そこで子どもを産ませて。子どもを産ませるといいう方は悪いかももしれないですけど、子どもを産ませれば、人口を増えていくしという話をしたんですが、だれも取り合ってくれないので、私の中だけでプランができています。

だけど、そういったことをちょっと考えたらいかなというふうに思いますけど。働き手として外国人を呼ぶんじゃないで、奥さんとしてとか、住んでもらうために。日本人も何となく、バイタリティがあって、子どもが増えそうな気がするじゃないですか。

○海野文貴委員 現実、そういう方も、中国の方とか、結婚されてる方もいないわけじゃないので。あながち夢のような話でもないと思うんですけどね。わかりました。人口を増やす。

○権田知宏委員 どれを見ても、ほとんど、そういうことしか書いてないですね。これ。一覧、見せてもらっても。やはり、女性にしても、若い人にしても。すべて、人が少ないという。

○海野文貴委員 そうですね。

○権田知宏委員 かなと思います。市役所の人がおるので、あまり言いたくはないですけど、市役所や、大手、中堅企業に、就職して外へ出て行くのは、あれだよ。給料だよ。地元の企業はなかなか高給出せないですよ。それと思えば、やっぱり、生活するためには、やっぱり、ちょっとでもいい給料のところへとか、名の通った会社へとかいう方が若い人にもおるとい。町の方が便利で

すもんね。インターネットを使って、今はもう遜色がない地域に住んでても、都会に出てもほとんど変わらないと言いますけど、やはり、買い物一つにしても、10kmも、20kmも走らないとなかなか買えない。それじゃあ、インターネットでとれるって言えばそうですけど、生鮮食料品なんか、すぐ来るといってもないですし。その辺も考えると、やっぱり、若いうちは、都会に住みたいとかっていうのがあるんですけど、ほんとは逆に、都会の方が医療とかなんかが充実してるので、年寄りになってから、都会に行ってもらってもいいですけど、若いうちは、田舎でちょっと苦労して、いろんなことを勉強してから、医療のお世話になるとかという、そういう条例をつくってもいいかなと。それは国で作ってもらわないといかんのかと思うんですけど。

そのぐらい大胆にしないと、なかなか地方は人口が減っていくので。ほとんど、どこも同じ問題を抱えてきてるし。東北の方なんか、ほとんどなくなってるような県が。

そうですね。雪を下ろす人もいない。そっちへ冬は出張に行こうかと思って。

○海野文貴委員 今、医療の話が出たんですけども、交通、医者にかかるということの交通の手段。歩いて行けない距離ということは別にして、医者の数というのは、医者一人当たりに対する地域、半径とか、たとえば、一つの市とか、町で、考えた場合、田舎の方が一人の医者に対する患者の数というのは、圧倒的に何て言うんですか。田舎の方が恵まれてると言うんですか。逆に言うと、医者一人に対して、田舎では10人だけど、都会では、医者一人に対して、100人とか、500人とか、そういった単位の数しか医者がいなくて、それでどんどん高齢化がしていくと。そうすると、医者が診る患者の数というのは、自ずと限界があるので、逆に、田舎の方が医療の、医者の数からすると、医療的には、恵まれているという考え方も、農村医療

の先生から言わせるとそういう話もあるので。まんざら、田舎の方も捨てたもんじゃないという。高齢化がどんどん進むと。町の方もこれから、もっともっと大変になると言うか。何でもお金がないと生きていけない、生活していけないという形になると、高齢化が進んでくると、田舎の方は何とか、年金とか、そういう部分も、少ないなりに、生きていくという部分では、何とかやっていける。ところが、町へ行くと、お金がないと、全く生活できないという。食べ物も手に入らないという、そういった、すべて、トイレにしても、電気にしても、すべてなので。そういった部分で田舎の魅力というのを、逆に発信できないかなみたいなのところも、ちょっと考えるんですけど。

そういった形で、今のうちに、田舎の方に住もうよみたい。そういうようなのは難しいですかね。

○菅谷浩久委員 結局、人の取り合いですよ。

○海野文貴委員 まあ、そうですね。

○権田知宏委員 田舎に住んでる家族がいるとしますけど、両方とも同じように年齢を重ねていく75とか、80になると、たとえば、そこにずっと住みたくても、車がないと移動もできない。そうすると、それが、できなくなるので、免許を返納したりしてできなくなるので、結局、もといた都会、自分の娘がいるところとか、息子がいるところへ、どうしても移り住んでしまうと、自然的に人口が減ってしまいますよね。そういう、医者の問題から言えば、そういう問題もあるので。たとえば、巡回していただける制度にするとか、何か、昔に戻るかもわかんないですけど、そういう制度もあつたらいいかなというのと。

たとえば先ほど、医療にかかるお金が高いという話もあつたので、たとえば、都会に住んで医者にかかる場合には、高額にして、たとえば、住めば税金も高いけども、田舎に住

めば、医療費も安くて、土地やなんかの税金も格段に安いとか、移り住んでくれた人には、特別な手当を出すとかということも、考えてみたらどうかなということをおもいますけど。それも、多分、ほかのところはやってることなので。それが、新城だけの特色となるかどうかというのは、なかなか難しいですけど。そういうことも必要なことだと思います。

○海野文貴委員 ちょっとさっき、菅谷さんがおっしゃった、サポートみたいな。高齢者に対する。そういった部分にはつながりますよね。

○菅谷浩久委員 どこもやってると言えば、そこまでなんですけど。じゃあ、大体、特色を出すっていったら、本当に思い切ったことじゃないけど、新城だけ減税するとか、そういうような、やっぱり、視点を変えて、医療費でも、今は3割負担ですけど、もっと下げちゃうとか、そういうことをやれば、すごい特色は出せると思うんですけど。でも、そんなのは、不可能ですね。今の中では不可能。そうすると、大体、何て言うか、同じようなものじゃないけど、そういうものしか、ちょっと出てこないようになっちゃうんですけどね。いいとこ取りじゃないけど、やっとなって、かっこいいなと思うやつを、持ってきてくっつけるとか。そういう格好で、最高のモデルがつくれればそれはいいことかなと思うんですけど。

やっぱり、さっきもお話に出た、高齢の人って、やっぱり、病院に行くのも大変じゃないですか。すると、今、新城でやってる、市営のバス、何か、バスありますよね。

Sバス。ああいうものをもっと充実させると、お年寄りにとっては、非常にいいね。あと、タクシー会社と連携して、そういう、何て言うんですかね。競争。競争というか、両方うまくいくような何かを、交通網じゃないけど、新城としての決まりをつくれれば、利用者も利用しやすいし、いいんじゃないかなと思いま

すけど。

○海野文貴委員 タクシーでSバスと。

○菅谷浩久委員 Sバスと競うんじゃないかと。

○海野文貴委員 お互いに補完し合ってみたいな。

○菅谷浩久委員 お互いに同じ方向を向いていけばいいんじゃないかなと。

○海野文貴委員 それはおもしろいかもしれないね。乗り合いタクシーみたいな、何か。

○権田知宏委員 そうそう。そういうような。富山やってますかね。

○海野文貴委員 乗り合い。今は、豊根で。

○権田知宏委員 近所の人がボランティアで乗せてあげるとか。ただじゃいけないから、1回、500円とかね。何か、やってたよね。やってなかった。

○海野文貴委員 病院とか、ああいったところに時間を合わせて。

○権田知宏委員 民間の会社がちょっと特殊なバスを使って半分ボランティアですけど、Sバスみたいなのを走らしてるみたいなものもあるし。この前、ニュースでやってたのは、豊田だけ。あそこも1軒家賃2万円幾らかで貸し出してくれるって、PRして、いろいろやったりしてる。いろんなところが、いろんなことして人を探してる。

○菅谷浩久委員 あと、個人タクシーじゃないけどね。こう、高齢者。高齢者じゃないですけど、定年したぐらいの人たちで、車をばんばん、運転できるような人だったら、それをタクシーじゃないけど、そういう形で利用されれば、どっちもメリットあるのかなというのをおもいますし。

だから、いかに、住みやすいというか、やっぱり、住みやすいというのが、一番、いいことなので。安全で。鳳来とか、やっぱり、作手を通らせてもらおうと、街灯が少ないとか、子どもさんがここ、歩くのは危険じゃない。今、そういうスクールバスとか、やってると

思うんですけど。その辺とか。そういう部分でいくと、住みやすいのかなというのがありますけど。明るい町にしたいですね。

○川合産業政策課長 今、地域産業の部分で言うと、やっぱり、雇用の部分をどうやって確保していくかというところも含めて人の部分の内容というところに一つ、問題がやっぱり、あるんじゃないかなという。もう一つは、その人が、消費の中心になる人たちなので、そこがいなくなっていくことによって、経済活動が停滞していくみたいな、人の部分で。どうしてもなっていくところをどうやって増やすのかというところの部分と。

ですので、人の部分では、雇用の確保の部分と、産業の活性化というか、中で循環させるのに、やっぱり、基礎的にどうしても人の部分がないとやれないという部分があるので、そういうことを皆さん、お話しされてるのかなと。

それをやるためには、やっぱり、条件という部分で、暮らしやすさとか、交通機関とか、医療とかの部分になってくるんじゃないのかなというふうに思うんですよ。なので、個々、個々のアイデアとしてはそういうものがあるんですけど、でも、実際は、それは条件であって。

○菅谷浩久委員 実際は、人をどう呼び込むかというのが・・・ですね。

○川合産業政策課長 そうそうですね。とか、中で、循環させる部分では、やっぱり、特に、商業なんて、人の数の部分で、圧倒的に東京の方が、東京と新城で、どっちがいいかって言えば、買ってくれる人がめちゃめちゃ多い方が絶対にいいわけなんで、そのうちの何%が買うにしても、100万人おると10万人おるとじゃ全然、パイが違うので、パイの維持をするのにというような形の中で、人口問題というものが、今、皆さんが言うてる中の捉えていく一つじゃないのかなと。

やっぱり、医療とかもむろん、必要なんで

しょうけど、それは条件の部分じゃないかなというふうに思うんですけどね。やっぱり、産業の部分とすれば、そういう視点の部分で、アイデアを出してもらってるというような気はするんですけど。企業とか、産業の中で、やりやすさみたいなものをどうやって確保していくかという部分の人の部分の一つの条件というふうには、なるのかなという気はするんですけどね。

○海野文貴委員 なるほど。そうすると。

○菅谷浩久委員 そうすると、企業誘致じゃないけど、やっぱり、ある程度の企業を新城に呼んでくるということが人を集めるには重要じゃないですかね。

でも今、それができなくて苦しんでるんですよね。結局。だから、それはそうなんだろうけど、それが、なぜ呼んで来れないのかというところが問題なんですよ。

要するに、場所としては結構あるわけですから。なぜ、新城を選ばないのかというところが。これを乗り越えなきゃいけないところ。

○川合産業政策課長 やっぱり、そういう部分は土地があるんだけど、規制があったりだとか。やっぱり、そういう部分の内容というのは、やはりあるんじゃないかなという。

○菅谷浩久委員 それプラス、この前も言ってたけど、豊川、豊橋に比べて、そこまで安くないという、言っていましたよね。宅地が。そういう部分も関係しておるのかなという。

○海野文貴委員 土地が少ないということもありますよね。平地がね。

○菅谷浩久委員 農地が多いですよ。

○海野文貴委員 そういうことだね。開発ができないという部分もそれはありますね。

○菅谷浩久委員 でも、・・・。

○川合産業政策課長 そうすると、やっぱり、農地という。

○菅谷浩久委員 農地か。そうすると、やっぱり、農地の集約化。大きくして、農協さ

んじゃないですけど、企業で、ちょこちょこやってのを集めておいて、集約化して、ここは何をつくるじゃないけど。そうすれば、会社になれば、働く人も多分、ふえるだろうし。

○海野文貴委員 今、一生懸命、担い手とか、あまり現場の話をしちゃいけないけど。集約してるから集約してる。やっぱり、会社とかそういった企業でも、やっぱり、いい農地は、これは会社でもできると思うんですけども、問題は、整備されてないような、あまり使い勝手の悪い、そういったところだけが残ってっちゃうんですね。

○菅谷浩久委員 そうですよ。

○海野文貴委員 何かそういったところも。

○菅谷浩久委員 機械が入らんとかね。

○海野文貴委員 そうそう。農地という、みんな、はいて手を挙げて使ってくれるんですけど。

そうすると、何だろう。目標とする新都市の地域産業を興すことによって、伴う目標とする新都市像というのは、住みやすく、働くところがあって、そういうところに向けて。

○菅谷浩久委員 目標ってやっぱり、何を指すかっていうことですよ。

○海野文貴委員 どういうところに向けて。

住みやすいとか、人口を増やす。賑わいのある。働くところですね。働くところと、それから、外から来て外国人も使う。外から来てくれるようなそんな新都市をつくるということを目指してみたいな。

○権田知宏委員 働く場所というのもあると思うんですよ。あると思うよ。企業でも、大半が外から来てる人ですよ。

○加藤産業政策課副課長 そうなんですって。

○権田知宏委員 前も、企業誘致を、ある企業さんが新都市に企業を持ってきたいというところで、候補に挙がってたんですけど、結局、働き手がいなかったんですよ。だから、100人から200人、常時欲しいっていわ

れても、働き手がいなくて、で、結局、三重に行った。そこは三重に行ったんですけど。

○菅谷浩久委員 そうなんだ。

○権田知宏委員 だから、働き場所は結構、あるんですよ。たとえば、この地元の企業でも、みんな人手不足だっていうので。

○加藤産業政策課副課長 最近の子は、優秀な子は特別ですけども、そうじゃなければ、これとって、職業を選ばないという人がほとんどなんですね。昔の方が。優秀なところに入っていい企業にっていう人が、今は少ないので。

市内の子どもたちが市内で就職するというのは、可能なんです。

今、権田さん、言われたみたいに、結論的にいってしまえば、市街化調整区域をなくして、農地法をなくして、一人100坪ずつぐらい、どーん、どーん、どーん、どーんと土地を与えて、道路が整備されてて、生活環境がゆとりがあたりして、会社がぼーんとできれば、もうよそから人がどーんと来るしか。市内の人の数が増えようがないですよ。人口が増えたりとか。地域の活性化だとか。

○菅谷浩久委員 そうか。そうなんだ。そうすると。

○加藤産業政策課副課長 どういう産業がっていったら。最初に権田さん言った、観光だ、農業だ、林業だ、というのは、地域の産業だって。それをどうかするのか。

○権田知宏委員 それをどうかするか、さっき、菅谷さん言われたみたいに、企業をどーんとこっちへ持ってくるかってことか。だと思んですけど。

○加藤産業政策課副課長 あと、先ほど、話出たんですけど、医療、福祉は、ほっといても、来さえすればやってける職業じゃないかな。これから。

○菅谷浩久委員 そういって誘致して。

○川合産業政策課長 介護の方も今は、人手不足だし。

○権田知宏委員 働く人がいない。
○加藤産業政策課副課長 人がいないですよね。
○権田知宏委員 人がいない。
○加藤産業政策課副課長 農業ももっと人で不足。だから、もっと厳しい。
○菅谷浩久委員 そうか。企業は、そしてたら、高校生だとか、就職を考えるわけじゃないですか。そのときに、企業の説明会じゃないけど、そういうようなのを増やしていったらどうでしょうかね。
○権田知宏委員 それも結構、増やしてもらってるんです。
○菅谷浩久委員 やってもらってる。
○権田知宏委員 それはもうやってる。
○菅谷浩久委員 やれそうなことは、
○菅谷浩久委員 やれそうなことは。
○権田知宏委員 大体、やってもらってるんですよ。
○菅谷浩久委員 それでも残らないというのは、ほかに魅力があるんでしょうかね。
○権田知宏委員 そうでしょうね。
○菅谷浩久委員 1回、出たいというのはありますよね。
○権田知宏委員 大学のときに、出ちゃうと、その辺が住みやすくなったり、友達が近くにいるといいとか、たまに、うちは、田舎の方に帰ってくると、何もないから不便だとかって娘とか言いますけど。もうすぐ帰って行っちゃう。そんな娘に、農業やれとか、建築や土木をやれとは、声もかけれんけど。
○加藤産業政策課副課長 親も今、権田さん言われたように、帰って来いとも言いませんよね。
○権田知宏委員 なかなか言えないじゃない。だから、そこで暮らしていけるか。
○権田知宏委員 給料もらって暮らしていけるか。
○菅谷浩久委員 そういう時代じゃない。

○権田知宏委員 でも、イノシシや鹿しかいなくて、だれからも襲われなくて、非常に安心、安全な町だよって言っても、それだけじゃ、安心、安全じゃなくて、たとえば、生活設計が立てていけると、将来に向けて、それじゃあこういうところで働けばとかというのは、当然、ついてくるもんで。そういうのがすべてそろって、安全、安心な新城市ということになると思うので、それらも含めてそういうふうを考えられてないといけないと思うので。
○加藤産業政策課副課長 その生活設計って、単純に、どんだけ、どんな仕事して、どんだけ稼いで、どんなふうについていう、周りにあるような、あそこならば、こういう生活ができるのでというような。
○菅谷浩久委員 ビジョンが描けるかどうか。
○権田知宏委員 たとえば、それがもし万が一、無理だったとしても、ある程度、見ると。今の子どもって、結構、そういう石橋をたたいて渡るじゃないけど、本当に、堅実な子が多いもんね。それは、どえらい儲けようとか、どえらいたくさん給料もらおうとかいう人が少ない割に。そうそう、堅実なもんで。それじゃあ、新城市に住んだら、30ぐらいで結婚して、子どもができれば、もう保育園で、ちゃんと子どもらの面倒を見てくれて、40ぐらいになったら、こういう企業で働いたら、このぐらい収入がありそうだよとかという、そういうのがちょっと見ると、安全、安心という、一つのところを補えるんじゃないかなと思うんです。たとえば、住んでて、犯罪が少ないから安全、安心とか、災害が少ないからというのは、それは確かに、その部分は、一つは付け足しなもんで、いいと思うんです。生活できてるかというのも一つの。
○菅谷浩久委員 経済的な安全、安心。
○権田知宏委員 その辺も、やっぱり、安

全、安心な新城市みたいなことになってくるんじゃないかなど。商店の人とか、だれも自分の息子に継がせたいという人がいないような。

○菅谷浩久委員 後継者がいないという。

○権田知宏委員 商工会でも、ほとんど廃業してるのは、子ども出てっちゃったし、呼び戻すということも言わずに、しょうがないや。向こうでちゃんと生活できてるからということ多いよ。

○海野文貴委員 結局、そういった将来に対するビジョンが描けないというか、安心してここに。

○権田知宏委員 安心してここで住める。

○海野文貴委員 絵がかけない。

○権田知宏委員 そうそう。そういうのも安全の一つ。

○菅谷浩久委員 安心、安全ってそういう面もある。

○権田知宏委員 たとえば、もう給料がもらえないような状態だとか、生活できないような状態だと、なかなか難しいようなところもある。ある程度、林業やったら、このぐらいになるよみたいなことが説明できたり、安心させる要素がないと難しいのかなど。

○海野文貴委員 特に女性なんかはそうかもしれないですね。男よりも、女性の方が、やっぱり、きっちり、安定感とか安心を求めて。安心がないと暮らさないみたいな。そういうこともある。

○加藤産業政策課副課長 何だかわからんけど、3、4年で、作手で新規就農10人ぐらい、よそから来て。じゃあ、生活設計、立ててないのかね。

○権田知宏委員 最初、補助金もらって。その後。

○加藤産業政策課副課長 多分、収入はきちっと出て、所得が上がってくるのでいいんですけれど。

○権田知宏委員 補助金でいただいでるう

ちはいいけど、3年先、5年でしたっけ。

○半田農業課長 施設を建てるのに補助が出るのと。施設を建てるのと、給料に多少、補助が出るでしょ。

○半田農業課長 年間150万。

○権田知宏委員 それがあるうちは、みんな、いいんですけど。案外、終わってから挫折する人が結構。

○半田農業課長 一昨日も、そのイチゴ農家さんに、就農したいという人が3組来たんですけど。試算上は、できるんでしょう。それこそ、150万ももらえない。もう所得が出ちゃうもんで。

○権田知宏委員 違うとくれないんですけど。くれないんですよ。多分。そういう。

○半田農業課長 交付金なんですけどね。年間、150万までというだけ。350万超えちゃうようになると、もう。

○権田知宏委員 そういうモデルがあっいいんですけど。

○菅谷浩久委員 生活、普通にできて。卒業したということですよ。

○半田農業課長 なので、研修のときに技術を覚えて、2年、3年目には、もう、繰り返し、繰り返し、生産ができるような体制が整えられて、収穫があがれば。あがれば。

今年からイチゴ農家さんに振り向けた。

○菅谷浩久委員 新城のイチゴは結構、いいですよ。

○半田農業課長 そうですね。

○菅谷浩久委員 部会に入ってる人がほとんどですか。

○半田農業課長 そうです。部会入ってる人のところに、2年間、研修、受けてもらって。就農して。

○菅谷浩久委員 そのために、家。家じゃないけど、土地と建物を。

○半田農業課長 土地は貸借。

○菅谷浩久委員 土地は貸借ですか。

○半田農業課長 空き用地があっ。それ

も3人集まらんと補助金が出ない、施設を建てる補助が出ないので、空きハウスみたいなものを使ってもらおうとかっていう。

空きハウスがある。

○菅谷浩久委員 空きハウスがある。

○半田農業課長 ビニールハウスがある。

○菅谷浩久委員 それを使うというのは、いい発想ですよ。だれかがやってくれる。

○加藤産業政策課副課長 国の方がやってくれますよね。制度があったりとか。・・・。そうじゃない部分の産業ですかね。

○川合産業政策課長 確かに。医療なんて、保険とか、医療制度の内容で、上げたり、下げられたりしちゃってる部分が多いという部分もあると思うので。なかなか、自力でやれる部分で、なかなか難しいかなというふうな。産業の部分は、自力でやれば、さっき、言ってみたみたいに、企業を呼ぶということができなくすれば、企業を創るとか、創業するっていう。呼べなければ、中で創ってしまうという。小さな企業でもいいので、創業のときに、支援するとか、いう形で、育てるっていう、企業を育てるというのもあっても。

○権田知宏委員 高齢者ばっかなので、働き手がない。主婦も結構、働かなかつたり、あと、もう定職、パートで持ってる人が結構いて、なかなか募集しても集まらなかつたりする。それでその企業さんは、と言っても一つだけ、諦めた。その企業がやってたのは、三重の、何ていうところだったかな。名前、忘れた。そのときには、新城市と、もう一つと、その今、会社のあるところと、3カ所ぐらい候補があったらしいんだけど、新城市はいの一番、だめだった。結局、働き手が調査したらおらんという。その業種だけかもしれないですけど。案外、もう既に職を持ってる人とかが多くて、フルタイムで働けない人が多いので、それで断念したって聞いたんですけど。

○加藤産業政策課副課長 税金は高いけど、

生活環境は整ってますよっていう市はどうですか。

○菅谷浩久委員 高福祉。

○加藤産業政策課副課長 福祉じゃない。

税金は高いですけど、住宅も、土地も広いですし、子どもも育てやすい環境ですよ。来ませんよね。若い人は。収入が少ないですもんね。

○半田農業課長 そうですね。絶対的にね。

○川合産業政策課長 じゃあ、あと、5分ぐらいになりましたので、少しまとめてもらうという形の中で、今、ちょっと、書いたものを、中で、貼っていくので、ここを見てもらいながら、少しまとめてもらってという部分の中に、入っていくのかどうか。

○菅谷浩久委員 目標が難しいですね。目標が。どうにかしてね企業を呼び込むとか。

これ読んでて思ったんですけど、田舎のこういうのつきあいが嫌だと書いてあったんですよ。

○権田知宏委員 たくさんいますよ。でも、新規就農の人なんか、いろんな人来るじゃないですか。新規就農の人だけじゃないですけど。若い子に聞いたら、もうそういうのが煩わしい。やだつて。僕らが地元に住んでても、あの会合だ、この会合だつて。ほとんどメンツ違わないのに、頭が違うだけで、ほぼ同じ会合じゃないですか。もう一遍にやってほしいけど、お祭りか、何だかんだつていっぱいあるのに。今までは、父が生きてたので、父に全部、出してもらってたけど、全部、わしに来るようになったら、もう大変でしょう。これはもう。結構、うっとうしいよね。

○加藤産業政策課副課長 月に1回、その区の人、みんな集まる常会ってありますよね。いまだに。

○権田知宏委員 あるな。大体、少なくとも2カ月に1回ぐらい。うちは12軒しかないもんで。全員で。

○加藤産業政策課副課長 毎月。

○権田知宏委員 そこへ行くと、超若手だな。いつまでたっても。

○海野文貴委員 まとめということで。まとめは何ですか。あと。

○菅谷浩久委員 目標と。

○海野文貴委員 目標ですか。

○菅谷浩久委員 目標と、進めるべき事項。

○海野文貴委員 目標はさっき、目標というのは、どういう指示ということであれですか。安心して暮らせる。安心、安全な町で、元気な。住みやすいということですか。住みやすく、雇用がある。雇用の場はもう既にあるんだ。将来設計が建てられるというのも安心とか、そういったことにつながるでしょうし。安心して暮らせるという。それで、たとえば、強力に推し進める事業、事項って何だ。どういうところを強力に。

○菅谷浩久委員 それはやっぱあれだ。どうやって人を呼び込む。呼び込むと言うか、今、さっき言われた、創るか、呼び込む。そこは強力的にやる。とにかく、人が集まれば、何かという結論でしたよね。

○海野文貴委員 定期的に。定期的と言うか。強力に推し進める事項という。柱となる。強力に推し進める。

○川合産業政策課長 向こうはどんなふうにまとめているんですか。

○海野文貴委員 どうなんでしょう。困っちゃいましたね。行き詰まってしまった。どうしますか。強力に推し進めるということは、さっき、ちょっと権田さんがおっしゃられた、農業とか、福祉なんてのは、観光というのは、どうですかね。観光。観光というのは、どんな可能性があるでしょう。

○菅谷浩久委員 やっぱり、外から。外から人を。

○川合産業政策課長 という部分だと思うんですよ。観光って。間違いなくね。外からという部分かなという。なので、あの三つぐらい。左から2番目ぐらいの三つとかの部分

で、やっぱり、交流を増やすっていうような形で、外からのものに対する目標を持つみたいなものというのがあっていいかなという。

○加藤産業政策課副課長 観光って、産業にはなりにくいですよ。なかなか。

○川合産業政策課長 難しい。

○加藤産業政策課副課長 産業。

○菅谷浩久委員 でも、知ってもらうための一つの。新城というのを知ってもらうための足がかり。

○加藤産業政策課副課長 来てもらって。お金を落とすだとか。いいところだと思ってもらって住んでもらうとか。

○川合産業政策課長 という形の中で。

○菅谷浩久委員 推し進めるというか、そういうこと。だから、目標ではなくて。

○権田知宏委員 産業を興すというか、元気づけるための一つの手段なので、観光はそれは欲しいところだとは思いますが。何か、産業ということになると、難しい。

○加藤産業政策課副課長 どうすればいいのか、難しいね。

○海野文貴委員 産業としては難しいかもしれんね。

○川合産業政策課長 ただ、農業と交流がくつつくみたいな形でいけば、次の分野への転換みたいなものは図られていくという可能性は。

○海野文貴委員 観光と何かをくつつけるとかね。

○川合産業政策課長 そうそうそう。だから、産業との連携というような形の中で。

○権田知宏委員 じゃあ、今ある産業をうまく転換するというので、一つ、出しとけばいいじゃないですか。

○菅谷浩久委員 進めるべき事項として。

○権田知宏委員 業態の複合化とか。

○川合産業政策課長 海野さん。あと10分でまとめて、40分から各グループごとに発表することになるので。

○梅津浩史委員 ここの奥の飯田ってあるじゃないですか。飯田なんかは、観光でいうことで言うと、あそこは、オーナー制度の木を売って。

リンゴの木を1本幾らで売って、なったらどうぞ来てくださいと。なったので、家族連れで。そういうのも一応、産業的にはいけるのかな。泊まってもらうことがいいかどうかは別として。それを多く、特に今の川売なんか行くと、梅が。そういう。この前、ちょっと、これを読みながら、何かないかなって。そんな話はいろいろ。うちの組合員さんでも買ってる人はいる。

○菅谷浩久委員 農業との連携。

○梅津浩史委員 だから、自分では育てんけど。

○菅谷浩久委員 観光。

○梅津浩史委員 1本、幾らで。なったからって。

○梅津浩史委員 異業種って、やっぱり、結局はそこなんだよね。推し進めるって。

○菅谷浩久委員 あそこの鳳来の連合でしたっけ。四谷の千枚田だとか、今はあまり。

○川合産業政策課長 産業との連携。

○菅谷浩久委員 1個だけを自分の米をつくるんだって、何か。

○梅津浩史委員 今、あるもので何かしないと、これから作り出すとなかなか、今、言われたように悩んじゃう。だから、ある意味、農業の人とか、もう1回、イチゴ農業とか、もっと、葡萄とか、整理をして、もっと広げて、大規模農業やるべきだとか。

○権田知宏委員 単体だと、やっぱり、小売りも農家も何もかも厳しいですから。それじゃあ、こっちとひっつけて、違う業態にしてみようとか、売り方変えてみようとかかっていうふうに、変えるしか、今の状況だと難しいかなと思う。

○川合産業政策課 やっぱり、そうすると、そこは、連携しながらという。一つの産業の

ところで、もう。

○権田知宏委員 ほとんど異業種交流をしてないのがほとんどなので。

○菅谷浩久委員 そうですね。してないのがほとんどですね。だから、これなんかが参考になると思うんですね。

○海野文貴委員 していないが多いね。

○梅津浩史委員 林業の話をしてたですよ。

○梅津浩史委員 なかなか大規模になってくると。だけど、それがなかなか難しいんですよ。特に、病院関係がもうかってたんですね。やっぱり。

○海野文貴委員 さて、それでは。目標という、どういう地域産業のような形、どういう形であればいいのかという目標なんですけれども。そのあたり、ちょっと、その目標の部分をしかりと。ちょっと議論したいと思うんですけれども。

一つは、やっぱり、安心、安全みたいな部分がやっぱり、地域のベースとなって、そこに産業が成り立つという部分もあるというふうに思うんですけれども。そんなところで。あといかに人が集まる。人が住んでもらえるかということですよ。人が住んでもらえるような。

○菅谷浩久委員 安心、安全な新都市を目指す。そして、それに付随して進める事項で、異業種じゃないけど、そういうのを推進していく。みんな、さっきも権田さん、言われたように、連携していない。

○海野文貴委員 連携をね。いろんな産業をいかにつなぎ合わせて、連携をとって。そういう機能をどこかの機関が果たしていくみたいなそういうことが大事になってくるということはあると思うんですけど。基本的には、労働、働いてくれる人がいない。働くところは結構あるんですけども。

働く人がいない。働く人がいないので、外から。

○梅津浩史委員 難しいね。

○海野文貴委員 いかにか外から来て。

○梅津浩史委員 職種によって違うもんですからね。というやっばり、3Kみたいな職場も多いし、交代勤務ですから、なかなかね。好まれる業種じゃない。

○菅谷浩久委員 横浜ゴムさんがは、新城に進出して現在までになった理由は。

○梅津浩史委員 強いて言えば、うちは、つくるものがよかった自動車タイヤでしたから。受注とかそういうのも、大きめのタイヤでしたから。それで、会社もそう言った、車も大きくなってきたので、需要があつて。だから、うちの横浜ゴム単体で見ると、なくなるときもある。いい、いいとは言われながらも、やっばり、淘汰されたところもある。今、質問からすると、いわゆる、つくるものがよかったのと、そうですね。この三河の人たちが、まじめに働いて、勤勉な人だったというところがあるんですね。

○海野文貴委員 労働の質としてはいいですか。この辺りは。

○権田知宏委員 ここはいいんじゃないですか。まじめでいい人ばかりじゃないですか。

○梅津浩史委員 どこ行っても、皆さん、いいとは思いますがね。その土地、その土地ですから。

○海野文貴委員 それでは、目標としましては、やはり、働く人がいないと。働く職場はあるんだけど、働く人がいない。そういう状況の中で、ここにいかに住んでもらえるような町にしていくか。そこで、その産業として、やっばり、そこには、安心、安全という部分が土台にあつて、はじめてこの地域に住んでくれる、安心して暮らせる町ということで産業があるというようなところが、あれですかね。一つの目標と言いますか、あまり説得力ないな。この目標は。

○梅津浩史委員 難しいですね。お題はや

っばり、夢とロマンを入れるかどうか。

○菅谷浩久委員 目標がやっばり、難しい。

○梅津浩史委員 数字的目標なのか。数字的にはやっばり、なかなか難しいと思うんですけどね。それは節操がないって言われそうですけどね。変わったねってまずは思われるかどうかですよ。第二東名ができて、変わったなという。

○加藤産業政策課副課長 新城って変わったなって思われるって、都市計画を外すこと。

○梅津浩史委員 のがあつたので、そういう意味では、やっばり、住みにくいのかな。広いですからね。新城市は。

○菅谷浩久委員 こういうものを市民に、こういうことをやってるんですけど、というアピールというか、もう新城市、愛知県で新城市だけ消滅都市ということを言われたというのは、みんな、多分、うすうす、テレビだとか、マスコミによって聞いてると。それをじゃあ、どうしていこうっていうのを、一応、そういうのを新城市が考えてるんだよということをもみんなにわからせることも大事なんじゃないですか。

(全体)

○鈴木誠委員長 じゃあ、加藤さん、いいですか。大体。まとめましたか。内容を紹介していただけますか。

○加藤直詳委員 こうした方がいい。すいません。我々の方のチームの結果をちょっと発表させていただきます。大ざっぱに言って、やっばり、生活にかかわる部分と、何か、産業全体にかかわってくるようなところ。二つくらいになるのかなというような考えで。生活にかかわってくるようなところ。課題として、中心には人口減少。やはり、人が少なくなってきているということが中心にあつて、だからこそ、買い物する人がいなかったり、場所がなかったり。だからこそ空き店舗ができ

たり、空き家ができたり。そして、具体として、若者がなかなかいないと。だから、若者をふやすだとか、女性の社会復帰だとか、そんな課題に結びついたり。道路網、交通網ですね。新東名とか、三遠南信とか。

実際のところ、住もうにも宅地がないじゃないのか。土地利用法なのか、都市計画法などで。実際のところ、人口を増やそうと思って、そこがやはり邪魔してるのじゃないのか。というような話をしたり、課題が出て来たり。働く場所がないとよく言われる一方、実際、労働力不足というような課題もあるよね。

そして、固定資産税の税金が高い。医療、福祉の充実に関しては、やっぱり、ちょっとここに高齢者の方々の福祉の課題なのか、産業振興の課題なのか、ちょっとよくわからないところも。いろいろと相関関係ありますが、高齢者の方々であれば、課題として、やはり、買い物するために、足がなかなか問題になったり。通院するのも、足の問題があったり、介護ですね。

そして、元気な人であっても、その人たちが生かされる、活用される働き場所だったり、ボランティアできる場所だったりという課題。福祉バスの利用率とか。まあま老人クラブの課題とか、ちょっとそんなこと、いろいろ出ました。

そんな生活全般にかかるようなことで、特に、このことに対する、何か、改善策は、というようなところまでは十分、時間はなかったんですが、空き家対策であれば、たとえば、住んでくれたら、もう家賃は無料でもいいんじゃないのか。もしくは、何か、補助できるようなことがあってもいいのではないかということが、一つ、解決策として、挙がってきました。

そして、こちらですね。一つ、大きな課題として、新城のブランディング。大ざっぱに言うと、そんなことなのかなというのも、ヒアリングシートの中から読み取りました。何

かと言うと、売れるもの、そして売れるような仕組みもつくるということが、やはり重要じゃないのか。それは、農業であったり、観光であったりという側面なんです。農産物、売れる農産物をつくる。そして、観光客に呼び込めるような方策を、そんな戦略を立てるというようなことですね。そこには、やはり、特産品開発で、山芋とか、蛍とか、イノシシとか、何か、もっとこのあたり、攻めていったらどうだろうか。

そして、観光課。新城市にありますが、より観光客を呼び込むような活動をする。地域の花火大会とか、お祭り事の業務ばかりで、みんな、追われてしまっておりますので、ここも、より戦略的な、外からの人を呼び込むような課になっていくべきじゃないのかというような話。

そして、地元のブランディングと、多少、こっちとも関係してきますが、中小企業の元気。この地元、オーエスジーさんや、横浜ゴムさん、大きな企業さんもいらっしゃいますが、地元資本は、皆さん、どうしても中小企業です。そこの元気というのも、やはり、働く場所。そして、若者の働く場所としての大きな位置を占めます。ですので、何か、そんな中小企業を元気にするための、地域。この地域の特徴をとらえたような何か。補助金であったり、地域の金融機関、そして、農協さんのそんな金融商品のバックアップなど。そんなことが考えられないのかなというような、ところまできょうは、今のところ、我々、Aチームの方は話をさせていただきました。以上でございます。

(拍手)

○鈴木誠委員長 はい。どうもありがとうございました。それでは、Bの方のグループの協議内容をご紹介いただきたいと思います。

○海野文貴委員 B班の海野と申します。よろしくお願いいいたします。ちょっとなかなか

かまとめる力がなくて、出た意見を言わせていただくような形になろうかと思いますが。

まず、目標としましては、何か、中心にあるものが、いかにこの新城に住んでいただけるかということで、基本的には、条件としまして、安心、安全、その上に、やはり、地域産業が成り立っているのではないかとということで、安心、安全に暮らせる住みやすい町をつくっていくということをベースに、議論が進んだような気がします。

その条件としまして、やはり、医療であったり、福祉であったり、農業であったり、環境であったり、林業であったり、そういった産業を発展させると言いますか、そういったことが条件として、どういうふうにならうか、そういう産業を発展して、そこで、人がいかに住んでもらうか。基本的には、人口が高齢化して、少なくなっていく、労働人口が少なくなっていく状況にある部分を止めるためには、やはり、外部から人を呼び込まなければいけないということも、取り組んでいかなきゃならないという問題だというふうに思います。

そして、ヒアリングのまとめのところで、異業種間で連携してる、というクエスションの3がですけども、その項目を見ますと、異業種間で、ほとんどの回答者の中が、連携をしていないということで、回答が出ていることに着目をいたしまして、いかに、先ほど言った条件の、それぞれの産業を、コラボレーションと言いますか、くっつけて、そして新しい雇用なり、魅力ある産業をつくっていくか。そういうことが、大事なのではないかというような結論で、強力に推し進める事項といたしましては、いろんな異業種間をくっつけて、新しい雇用や、形態、観光にしても、農業と観光ですとか、いろんな部分をくっつけて、新しい雇用状況をつくり出していこうと。それによって、人を呼び込んだ、地域の産業を発展させていこうというようなことが筋であったかなと思います。

以上でございます。

(拍手)

○鈴木誠委員長 はい。どうもありがとうございました。それでは、どうでしょう。それぞれ、今、言っていただきましたけども、他の、別のグループの意見の中で、何か、気になることとか、聞いてみたいこととか、もしおありでしたら、出していただきたいと思えますけど。

どうでしょう。Aの、こちらのグループの皆さんの方から、何か、Bの内容、意見について、お聞きになりたいことってありますか。どうでしょうね。どんなことでも結構です。いかがでしょう。加藤さん、どうですか。

○加藤直詳委員 大丈夫です。

○鈴木誠委員長 鈴木さん、いかがですか。ないですか。

○鈴木太委員 ちょっと。

○鈴木誠委員長 いきなりふりました。よろしいですか。どんな点でも。Bの方、皆さんの方から、Aの皆さんの発表の内容について、何か、確認したいこととか、お伺いしたいこととか。どなたでも結構ですが。いかがですか。よろしいですか。大体。はい。

そうしましたら、きょう、皆さんから、意見を出していただきまして、改めて、この条例で、やはり、掲げるべき、何のための条例なのかという、条例を通じて目指すべき目標というのを、ずいぶん、具体的にきょうは出していただきました。こちらの、Aの方のグループの中では、もう新城が消滅可能性都市だと、国があのように指名をしてくるわけですけども、そんなことを言われるまでもなく、傾向的には、定住人口が減っている状況の中でも、実は、いろんな市内の取り組みを改善、改良、新たに行うことで、人口の吸引力を増す可能性が幾つもあるという指摘を出していただいたわけですね。

国の方で、いろんなモデルケースを出してまますけども、そのどこにも実は当てはまら

ない、独自のやっぱり、基本路線というのがあるような気がしてならないんですね。きょうは、そういった点で、目指すべき目標像というもの。人口の改善、人口の増加というような観点で出していただきました。それにかかわって、この条例の中身というのを、きょうは指摘を具体的にさせていただいたというように思いました。

Bの方は、この条例でやはり、目指すべきところって、安全、安心ということを出してもらいました。人口が増えるということはいいんだけど、その人口という場合でも、若者でもあるし、それから、働く人たちという点でもあります。ここに、安全とか、安心という、安心して働く、安全に働くという観点で、幾つか重要な柱を、きょうは、出してもらいました。

こういう目標を具体的にいただきましたので、これをより精査して、今後、生かしていくということが大事かと思えます。特に、Bのところ、きょうのヒアリングの中身の内容に言及もさせていただいたわけですよね。特にその中で、異業種の連携というものが不足しているところから、逆に、今度は、連携の可能性に話を及んでいただいて、新城のこれから産業政策で、重要なところは、個々の事業が頑張るといふ、あるいは、個々の事業を支援するということだけではなくて、むしろ、違う業種、たとえば、農業と観光。小売とそれから、医療。それから、製造業と観光。こういう異業種の中での協働。異業種間連携というものを、これを企業の規模の大中小問わずなく、つくりあげていくような観点も大事だということも、きょう、お話をいただきました。

そこに、実は、若い人たちの就労の魅力をつくり出す可能性がある。あるいは、安全という切り口で、実は、新しい商品やサービスをつくり出す可能性があるというふうにもご指摘いただいていると思えますね。

それから、中には、同業種でのより連携と。その辺は、横請けというような連携の可能性も言ってみえるんだろうと思いますけども、こういうこともご指摘いただきました。

こういう、異業種、同業種の連携の方法なり、内容をより具体化することが大事だということに、きょうは、話を持って行っていただいたように思いました。

実は、この2チームのお話の内容と、それから、ヒアリングの内容。これを、きょう、いただきましたので、今後、次回に向けて、では、たとえば、人口減という目標の一つは掲げて、人口減、人口増というところを一つの目標に掲げながら、では、異業種、同業種のどういう連携の方法と内容があるのかというところを、具体的に、いただいた資料を基にして、ちょっとつくってみようかなと思っております。

それを実現していこうというのが、条例でもあるんですが、併せて、そのような異業種等の連携という場合に、一体、だれが行うのか。それは、行政が流すだけじゃなくて、どういう業種の皆さんが連携をするのかという中身のところにも触れていかなきゃいけないと思えますので、その辺りも、今後、次回に向けて準備をしてみたいというふうに考えてます。

少し、話を戻しまして、この条例なんですけども、先ほども、ちょっと話をしとったんですけども、この条例というのは、簡単に言うと、これは前回言ったように、市民の皆さん、事業者の皆さんと行政との約束ごとではあるんですけども。単なる文面でしかないわけですね。条例で終わるんだったら、これは、そう難しいことではないんだろうと思うんです。

たとえば、具体的な例で言いますと、東京の墨田区なり、台東区なりというところへ行くと、ここでは、条例と同時に、何をつくっているかと言うと、マスタープランというの

を作ってるわけですね。もう2020年に東京オリンピックがやってくるわけですね。そうすると、東京オリンピックという大激変を意識して、町を、どうつくりたいかという目標を掲げて、具体的に何をやるかということ掲げているわけです。こういうマスタープランなり、実施計画というのをつくっているわけですね。

それから、東京だけじゃなくて、地方でも、たとえば、北海道の帯広という町に行くと、ここも、こういう条例を作ってるんですが、併せてマスタープランも作ってるわけです。これは、今、TPPで大揺れになっている農産物の輸入自由化が始まってくるとか、それから過疎化が思いっきり進んでくるということ想定して、では、10年間でどのような町を、地域をつくっていくのか。強みをどうやはりより発展させるかということ、具体的に描いていく。そういう計画を持っているわけですね。

新城の場合は、先ほど部長さんにもお話を伺ったんですけども、これまでは、新城市の産業ビジョンなり、産業振興計画というのをつくる機会というのは、なかなかなかったんですから、今回の条例。今、皆さんに検討していただいている条例の検討を通じて、やはり、今後は、新城市の産業振興の計画。つまり、10年でどういうことをやるべきなのか。だれが取り組むのか。こういう。そして、その進行をきちっと管理をして、ローリングという、見直しなどしながら、当初、掲げた目標を着実に達成していく、そういう計画、新城市の産業振興マスタープランなのか、産業振興計画なのか。この辺は、今後、具体的に。そういうものも同時につくっていく。それが、この今の作業の重要な役割になってくるわけです。

ということをご理解いただけたというふうに思います。

条例を作る。その検討の先に、新城市の、

仮にですけども、10年間ほどの大きな産業政策の内容を同時につくっていくことになるということになります。そういう重要な意味づけがあるということ、きょう、改めて再確認をしていただけたというふうに思います。

以上のような内容の確認と併せて、非常に重要な指摘をいただいたということ、きょうのまとめにかえさせていただこうと思います。

では、今回は、きょうのご指摘、それから、ヒアリングの内容をふまえて、目標とする案。目標案と、それから、目標達成に向けて取り組むべき重要な政策の柱として、たとえば、異業種での交流、連携の内容と方法。それから、同業種での連携の内容と方法。それから、幾つかの企業が、働く人たちのために、どのようなことをしたら、若い人たちや、女性やそれからベテランの人たちが、よりこの新城の職場というものを求めて、そして、働き続けて、地域にも貢献できるか。こういった内容を一度、精査して、皆さんにお示しをすることから、検討に入りたいと思いますが、どうでしょうか。

で、その次の段階としてですが、では、皆さんにそこを検討していただいたら、そのような政策を進めていくために、たとえば、金融機関はどのようなサポートができるのか。国の補助メニューとして、どういうものがあるのか。そういった内容にまで入っていけるかというふうに思います。いかがでしょうか。

では、次回に向けて、そのような準備を今後、事務局と一緒に進めていきますので、また次の機会に、ぜひ、検討をしていただけるように、大分これでまとまって、収れんしていきますので、次の機会がとても重要になりますので、よろしくお願いたします。

私の方からは以上です。

○川合産業政策課長 ありがとうございます。次回の委員会の開催予定の日程案をこ

こでご提示させていただきたいというふうに
思います。既に日程調整の文章をお出しさせ
ていただいて、今のところ、一番、大勢の方
がご参加いただけるのが、2月23日月曜日の
午後6時からの部分か、それから、午前中
の部分かという形で。

すいません。23日の午前か午後。でよか
ったんですか。

○事務局（谷川） いかがですかね。

○鈴木誠委員長 僕は、もう、全部、大丈
夫です。

○川合産業政策課長 よろしいですかね。

○鈴木誠委員長 午前も午後も、夕方でも
大丈夫です。皆様のご都合で。

○川合産業政策課長 今のところは、一番。

○老平部長 事務局サイドが午後じゃない
と。

○川合産業政策課長 そうですね。できな
いですね。なので、午前か午後、いずれかに
させていただきますが、一番多いのが、18
時からという部分になりますが、特に支障は
ございませんでしょうか。夕方からというこ
とになってしまいますけども。

はい。じゃあ、一度、この場では、23日
の18時からということで、仮に決定させて
いただきます。ただ、どうしても、ここの部
分でということになれば、改めてということ
にもさせていただきたいと思いますので、ま
ず、この場では、2月23日の18時からの
勤労青少年ホーム2階の軽運動場というこ
とでさせていただきたいと思いますので、よろ
しく願いいたします。

○加藤産業政策課副課長 以上をもちまし
て、第3回新城市地域産業総合振興条例審議
委員会を閉会させていただきます。